

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ウイメンズヘルス看護論	3	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・3年生前期科目である。受講動機を見てみると、「関心のある内容である」が72.4%、「単位数を確保する」が44.8%であった。本科目は単位取得に関わる科目であるが、関心をもち受講している学生が7割以上いた。本科目では、女性の健康に関する課題について自身の考えをまとめ、看護援助方法について考察することを目指して。また、机上学習でなく、問題意識を持ち探求する意欲が求められる。また、医学だけでなく、経済、政治、文化なども含めて包括的に捉えられるよう数名ずつの担当制とし、適宜学生へ助言・相談できるような体制にした。また、学んだことを受講した学生で共有できるよう全員が発表し、意見交換の時間を設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であり、36名の学生が受講している。</p> <p>・最終的な成績の平均値は77.6点であり、再試対象者は0名であった。受講した学生は概ね標準レベルに達し、その内理想的レベルに達した者は44.4%であった。</p> <p>・目標別にみると、知識・理解は76.7%、思考・判断は75%、関心・意欲は80.2%の達成度であった。また、学生の到達度自己評価の平均値は3.7～4.0であり概ね肯定的な評価であった。評価項目の内容をみてみると、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が最も高くなっている(共に4.0)。また、学習量の評価として、授業に参加するために、1回30分以上の準備を「全くなかった」と答えた学生はいなかった。以上のことより本科目の行動目標として一定の評価ができるかと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性</p> <p>本科目は、選択科目であり、専門教育科目の看護実践の充実に位置づけられている。受講動機や学習到達度自己評価などより主体的な回答も得られたこと、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性</p> <p>目標別にみると、意欲・関心に関する達成度が高かった(80%以上の理想レベル)。また、到達度自己評価においても知識・理解、関心・意欲の項目に関して概ね肯定的な回答であった。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上より、内容に関しては妥当であると考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の自由記述に「楽しかった」「大変だったが受講してよかった」「ありがとうございました」という肯定的な回答があった。学生の理解度を確認しながら学生自身が学びが得られたと感じられる適切な助言・働きかけが必要であると考え、この点については引き続き努力していく。</p> <p>学習量の評価に関して、復習を全くしなかった学生はいなかったが、図書館の利用に関して大多数の学生は利用していたものの「図書、雑誌の利用」、「学術データベースの検索」について利用しなかったと回答した学生が数名いた。課題についてより詳しく調べていくことは関心・意欲と関連があると思われるが、理解度を確認しながら個々の学生にあった細かい指導が必要かと思われる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、選択科目であり、専門教育科目の看護実践の充実に位置づけられている。授業成績や授業評価アンケートより科目の本質は概ね学べていると考えるが、学生の自由記述より「仕方がわからない」「大変だった」という回答もあり、方法など学生全体に周知するだけでなく、担当制の中で、学生の習熟度を確認しながら助言することが必要かと思われる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学 I	1	前期	必修		116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 学生の授業評価アンケート(学科ABの全体102名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が6.3%、「関心」と「GPAアップ」が1.96%、「資格取得」が0.98%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「59, 39, 8」で96.36%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「4, 0」で3.64%、無回答が「0」であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与え、授業への参加意識を高める工夫の一つとする。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には看護と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>① 成績を見ると、平均値は82.03点であり、再試対象は2名で1.74%であった。分布的には、90点以上が17.39%、89～80点が46.09%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は62.61%であり、79～70点が32.17%、69～60点が4.35%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは36.52%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 110名の学生の達成自己評価を見ると、<知識><理解>に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「57, 38, 15」と「52, 45, 11」で100.00%と98.18%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)にそれぞれ「0, 0」と「2, 0」で0%と1.74%であった。それに対し、③ 専門分野では、<検討する力><判断する力>に関しては、肯定的回答は「33, 43, 23」と「31, 38, 26」で90.00%と86.36%であったのに対し、否定的回答は「9, 2」と「12, 3」で10.00%と13.64%となった。また、<意欲>に関し肯定的回答は「27, 38, 30」で86.36%であり、否定的回答は「12, 3」で13.63%であった。④ <技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「25, 34, 31」「27, 32, 28」で81.82%と79.09%であったのに対し、否定的回答は「14, 6」と「19, 4」で18.18%と20.91%であった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「26, 38, 37」で91.82%であったのに対して否定的回答は「8, 1」で8.18%であった。⑥ <職業選択の参考>では、肯定的回答は「20, 24, 35」で71.82%であったのに対し、否定的回答は「18, 13」で28.18%であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、<知識><理解>では0%と1%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、<検討する力><判断する力>ではそれぞれ10.00%と13.64%、<意欲>も13.63%であり、<技術><コミュニケーション、表現力>習得では18.18%、20.91%である。<倫理・規範>に関しては8.18%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための<知識><理解>及び責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための<倫理・規範>、これらの分野では否定的回答が前者2つは0%と1%台、そして残りが8%台であった。これに対し、専門分野の課題を解決のための論理的思考・判断にかかる<検討する力><判断する力>、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける<意欲>並びに、<技術>の習得という専門分野と、適切な関係を形成する<コミュニケーション、表現力>に関しての否定的回答はそれぞれ10乃至13%台、13%台、18%台であり20.91%となった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では100%か98%以上であり、専門と技能表現の分野では<コミュニケーション、表現力>が79%台となったが、他は80%台であり、授業内容は妥当であると考えられる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考えられる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 学生からの担当教員へ意見は3件あり、2件は「楽しかった」と「毎回丁寧な講義、ありがとうございました」という肯定的な意見であり、1件は、板書の「字が読みにくい」という苦情であった。楷書でないと読めない学生への対応の必要性を感じる。② 授業課題以外の取り組みにつき、22人が取組んだ学習内容を挙げ、11人の学生がしなかった理由につき、「時間がなかった」(4)、「授業を頑張った」「予習を主にした」「復習しかなかった」「授業該当のテキスト箇所をまとめた」「必要がないと思った」「何をすれば良いか分からなかった」「理由は何もない」(1)を挙げた。第1回目授業から配布している「自己学習記録」に予習・復習欄を設けたが、それ以外の取り組みについては積極的に指摘しなかったことが原因であったと思う。③ 学習量の評価を見ると、<1回30分以上の予・復習>6回を各28人、23人が実践し、1回以上の予・復習は各90人、98人で、80%以上であった。④ 授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「58, 37, 14」で99.09%であった。<理解しやすい>という項目では、「37, 37, 28」で92.73%であった。ただ否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「5, 2」で6.36%あった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「47, 30, 23」で90.91%に対し、否定的回答は「9, 1」で9.09%あった。<参加の機会>では肯定的回答が「28, 23, 29」と79.21%であり、否定的回答が「21, 9」で27.27%であった。学生が参加しやすい工夫が必要である。⑤ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1)レジメの配布、2)予復習の方法の明確な指示、3)毎授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の担当教員への肯定的な意見は、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での「的確に判断する力」及び「その学びを深めたいと意欲をもつ」ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、上記に記載した改善策に取り組む工夫をする。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後もレジメを改善し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル I	1	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は韓国語学習歴がない学生を対象に韓国語の基礎を身につける事を目標としている。ハングルの読み方とその正確な発音、文構造の理解、数字の使い方などの基礎を身につけ上級クラスへ進められる知識と身につけられるよう授業を進めてきた。</p> <p>学期始めに実施したアンケートで「k-popが好きだから」などの積極的な受講動機もあったが、「単位が欲しいから」「簡単そうだから」などの動機もあり、学習に対する姿勢に差がある事が事前に分かったため、興味を持ち続けるよう韓国の小話やk-popを授業に取り入れた授業にした。</p> <p>また中間試験や小テストの実施で学生の理解を確認しながら授業を進めた。また復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績平均が81という満足のいく結果を得られた。</p> <p>授業評価においても「知識を新たに得ることができた」で高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。</p> <p>看護学科は専門科目での学習量が膨大なため、外国語の「ハングル」は出来るだけ授業時間内に完結するような講義構成をした。必須復習事項を毎時間の終わりに提示し、不定期の小テストと中間テストの実施で学生の理解を確認した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性</p> <p>試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。</p> <p>また授業評価で「自分なりの目標を達成した」で中間値が5という結果が妥当性を代弁している。</p> <p>DP</p> <p>授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。</p> <p>まとめ</p> <p>以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、韓国語会話の時間を増やすなどコミュニケーションの機会を増やすように努めた。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。来年度も引き続き良い成果を挙げられるようにがんばりたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	桑野 嘉津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア活動論	1	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①ボランティアについて学ぶ意義を理解できないまま受講している学生が多く、学ぶことへの動機づけが大きな課題である。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が51.9%であるのに対し「単位数を確保する」ための受講が66.7%であったことはこのことを示唆するものであった。できるだけ身近な事例を挙げて、関心を引きつけるようにした。</p> <p>②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。ほとんどの学生がこれまでに学校などでボランティア体験をしているが、社会情勢への関心については70%を超える学生は新聞をほとんど読んでもらわず関心が薄かったため、社会の情勢や地域の問題について関心を持つためにボランティアに関する記事を探し感想を書くことを課題とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は82.4点(±5.2点)であり、9割が理想的レベル(80点以上)に達した。身近なボランティア活動について調べ資料を作りプレゼンテーションをするという課題、ボランティアに関する記事を探し感想を書いて提出するという課題、各自でボランティアを実践し報告書を提出する課題については全員が達成、レポートの内容についても全員が標準レベルに達した。目標別に見ると知識理解に関しては学んだことを口頭発表やレポート記述で自分なりにまとめることが出来ていた。意欲関心については受講動機の「関心のある内容である」が51.9%だったにもかかわらず、それぞれの課題について全員達成しただけではなく要求された量以上の課題を提出するなど意欲的に取り組んだ学生が多かったことは評価できるのではないかと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目であるが授業準備の欄で指摘したように「単位数を確保する」ために受講した学生も多く、動機付けに苦慮する面があるが、課題を工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 それぞれの課題について高い割合で達成したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>全8回の授業の中で学生自身がじっくりと考え話し合う時間や質問の時間を確保することが難しいため、毎回のレポートを次回の授業で活用するよう工夫した。 ボランティア活動について調べ資料を作る課題や記事の感想を書く課題のために、授業中に新聞記事の資料を配布したり全員でインターネットを閲覧したりして、図書館での新聞閲覧やインターネット等の利用を促した。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>ボランティアの学びは技術向上や資格習得など学生の成長に直結するものではないので動機付けに苦慮する面があるが、日頃の学生生活の課題と結びつけることで身近な問題としてとらえ、看護師として積極的に社会に貢献しようという意欲に繋がるように工夫する必要があると考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リハビリテーション看護学	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>「リハビリテーション看護学」は、既習の形態機能学、疾病学、成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論、老年看護学などと関連する科目で、急性期疾患だけではなく慢性期疾患におけるリハビリテーション看護について構成している。また、理学療法士、摂食・嚥下認定看護師を外部講師による技術演習を取り入れた。</p> <p>「必修科目である」100%と最も多く、次いで「資格取得に必要である」5.8%、「関心のある内容である」1.4%、「単位数を確保する」1.4%と低かった。本科目は必修科目であり、3年次後期からの実習に向けて取得不可欠な科目であるため、致し方ないと考える。</p> <p>学修準備としては、3年次前期は、他の科目でグループワーク等が多く、課題が多い。オリエンテーション時に他の科目との調整を行いながら学習していくことを伝えていたが、55%がシラバスを参考にしておらず、77%が計画を立てていない。また、ほとんどの学生が授業参加するために1回30分程度以上の準備を0回と回答した学生が47%、授業を振り返るために1回30分程度以上の復習を0回と回答した学生が48%であった。学生の学習していない理由をみると、他の科目の演習課題が多いため「時間が無い」「余裕が無い」という意見が聞かれた。それに対して、「教科書をよんだ」「わからない所をノートにまとめた」と回答した学生もいた。例年、オリエンテーション時に他の科目との調整を行いながら学習していくことを伝えていたが今後も続けていきたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は90名が履修した。定期試験平均値は、74.0点(SD7.4)点で、最高92点、最低52点であった。再試者2名であった。理想的レベル(80点以上)は、28名で30%であった。そのうち秀は、1名であった。</p> <p>目標別にみると、「知識理解」は75.0点、「思考判断」は69.1点、「関心意欲」は89.3点であった。</p> <p>「知識理解」や「思考判断」は定期試験で評価を行った。特に、運動器や脳神経のリハビリテーションの看護の理解が難しいようである。牽引の看護は各自でノートを整理するように工夫をしたが、少しわかりにくいという意見が聞かれた。今後検討していきたい。</p> <p>「意欲関心」は技術演習における態度・実施項目や事後のレポートで評価を行った。技術項目は意図的に項目立てを行うことで、学生が主体的に学習するように工夫を行った。学生は真面目に演習に取り組んでおり、理解に繋がっていたと考える。学生の自由記載欄にも「演習はおもしろくて、とても身になった」という意見が聞かれた。到達度自己評価においても、3.5～3.6点であった。図書館などの利用は、37%と利用者が少ない。演習後の課題を提示しているが、一般論に戻りながら学習するような課題提示を考えていきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」で、看護師国家試験に関連する科目で必修である。定期試験の平均点から考え、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、「思考判断」の達成度が低かった。定期試験において、国家試験レベルの状況設定問題で「思考判断」を評価したが、基本的な理解の不足のために解答できなかった可能性がある。応用する力を付けるために講義の工夫を行っていきたい。</p> <p>③まとめ 以上のところから、内容的妥当性には問題はないが、配分の検討を行う。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、すべての項目で「まあまあそうだと思う」「わりにそう だと思う」で9割を占めているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し 合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」15人が「少し そうでないと思う」と回答しており、技術演習での学生参加を企画して いるが、グループ間の話し合いが持てるようにしていきたい。</p> <p>先述したように、3年次生は多くの演習科目が重なっているため、なる べく課題を減らした構成にしている。技術演習のための課題を課して いるが、それにより、図書館やインターネットの利用に繋がっていると 考える。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>概ね目標は達成できたと考えているが、個人差が大きく、特に思考判断 については今後の課題となった。</p> <p>演習では、様々な体験を意図的にさせるために、項目立てを行うなど 工夫を行ったことで、主体的に学ぶ姿勢がみられた。次年度も学生が 主体的に学ぶことができるような計画を取り入れていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話A	1	前期	必修	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course focuses on oral communication, specifically vocabulary, speaking, and listening skills in a medical setting. The textbook is Vital Signs 1 (Nan'un-do) which includes functional and grammatical targets in a variety of medical contexts. The students engage in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 4 criteria (passive participation 30%, active participation 23%, vocabulary building 27%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in vocabulary and communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 70-88 range.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students showed progress in their interest and attitude towards English. Students are almost always quite eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in medical contexts. The specific skills acquired were functional, in terms of medical vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning English. As a result, students generally acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>My main goal for the next academic year will be to continually transition the Nursing Departments to a medical English-oriented curriculum. This will include integrating increasingly relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools. Blended learning will be implemented wherever appropriate. Vocabulary building online supplementary activities will be encouraged.</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>Creating assessment tools to encourage acquisition of medical vocabulary for use in medical situations will require a strong vocabulary component. This will continue to be achieved through weekly assessment and blended learning opportunities. Vocabulary use will be solidified through role-plays and group exercises involving basic grammar and medical vocabulary.</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	薬師寺 元子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語 I	1	前期	選択必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>『受講動機』は、必修科目ですので、7名の学生を除いて、ほぼ全員真剣に取り組んだと判断致します。しかし、昨年同様、専門科目である福祉関係の科目の準備が忙しすぎて英語まで手が回らないと言う自由記述が多々見られました。「授業の範囲だけで精一杯」、「他の課題があって取り組めなかった」、「簡単である必要がなかった」等がありました。授業の実施にあたり大切にしていることは、積極的、且つ、能動的な学習態度を軸と致しました。①まず出席とレポートの提出が肝要であると強調致しました。②次に予習、復習に重点を置くように勧めました。③さらに、予習復習を徹底するためにノートを作り、その使い方を詳細に説明致しました。まず英文をノートに写し、和訳をし、新出単語を調べてくる。これは、一部の学生を除いて、約8割が実行致しました。『授業以外に具体的に取り組んだ学習』の自由記述に、「本文を全訳し、重要表現を復習した」、「ノート作成を行った」、「解らない単語を調べた」、「友達と英会話をした」、「予習、復習をした」、「文法を復習し直した」等と類似項目を含め25件ありました。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目では、全員が、標準的レベルに達し、最終的な成績の平均値は100点満点中の83.5点であり、再試対象者は2名でした。80点以上で、理想的なレベルに達したのは、116人名中96名もいました。考査の難易度は、標準的なものを作成致しましたが、「自筆ノート持ち込み」でございましたので、平均点が高得点であったということもございます。『学生の到達度自己評価』につきましては、概ね肯定的な解答で、(1)自分なりの目標を達成した(94.7%)。(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た(92.5%)。(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た(87.7%)。(4)自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た(約86.8%)。(5)自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることが出来た(85.0%)。(9)職業倫理や行動規約(守るべきルールなど)について学ぶことが出来た(80.7%)。と非常に割合が高い結果になっておりますが、(10)職業選択の参考になった、という点に関しましては、10名が「全くそうでないと思う」、18名が「少しそうでないと思う」と否定的な解答が約24.5%もいました。肯定的な解答が75.4%ですので、相対的に言えばやや達成された結果となっております。自由記述につきましては、「授業を面白く学べた」、「訳が早すぎて追いつけないことがあった」、「発音がわかりにくかった」と様々ありますが、全員が納得し、満足してもらうように、もう少し授業の速度を落とし、ビジュアル資料などを織り交ぜ、理解を深めるように、検討及び努力したいと思います。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①<CPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価> 本科目は福祉学科、看護科の必修科目であります。昨今、グローバル化が進み、英語の発話力が問われてきました。しかしコンピューター時代に入りましたため、それ以上に、正確な英語の読解力が求められます。精読により、語彙力、文法力を徹底的に修得することが肝要でありますので、中心的必修科目の位置にあるといえます。学生の本科目に対する到達度自己評価に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」、「職業倫理や行動規約(守るべきルールなど)について学ぶことが出来た」等に関するものが、ほぼ8割以上を占めていますので、本科目の内容的妥当性は確実であると考えます。</p> <p>②<DP, 行動目標から見ての内容的妥当性> 学生が達せざるべき行動目標は、「グローバル化社会で生きていくために、『英語』に取り組む積極的な姿勢を身に付けることが出来る」、「『受診の予約』から『退院』まで、医療の現場で使用される重要な英語表現を身に付けることが出来る」、「外国人患者に対して、積極的な対応姿勢を示すことが出来る」、「テキストの巻末にある『医療用語日英対照表』を修得できる」と挙げられております。この項目につきましては、教科書、『Introduction to Medical English(医療英語入門)』により、知識を広めながら、英文を確実に精読し、内容を理解致しました。これにより、「グローバル化社会で生きていくために、『英語』に取り組む積極的な姿勢を身に付けることが出来る」、「『受診の予約』から『退院』まで、医療の現場で使用される重要な英語表現を身に付けることが出来る」、「外国人患者に対して、積極的な対応姿勢を示すこと</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p><授業の質評価>につきまして、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では、「まあまあそう思う」と「わりにそう思う」と「かなりそう思う」を合わせると、95.6%でした。「期間内に行うべき課題は明らかであった」は、92.9%であった。「説明は理解しやすいものであった」では、81.5%であった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、93.9%であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、其れに答える機会がつけられていた」では、92.9%であった。以上総合いたしますと、ほとんどが、進め方につきまして、好意的な結果で、一生懸命に取り組んが効果があつたと考え、自己の授業の進め方を自負致します。しかし、これに止まらず、「学生アンケート用紙」等を活用したり、学生としっかり意思疎通を図ることによって、学生がいかにか、楽しく、興味を持って、英語に取り組むことができるかについて、更に、一層の工夫を凝らす所存でございます。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>授業を振り返ってみますと、教科書、『Introduction to Medical English(医療英語入門)』を中心に、非常に丁寧に、じっくり進めたので、かなり、効果的な授業を進めることが出来たと考えます一方、「英語の発音、日本語訳が早すぎて追いつけないことが多々あつた」、という意見が出ていますので、この点を十分に心得、学生の様子を観察しながら、効率の良い、授業を進めていくように努力致します。テキストは標準的なものでございましたが、実際は、大変時間が掛かる予習で、専門科目と重複し、かなり負担であつたと判断致します。しかし、教科書事態が、将来の職業に結びついたのであつたので、興味を以て学習に取り組むことが出来たのではないかと存じます。</p> <p><学生が具体的に取り組んだ学習>と致しまして、「予習、復習に取り組んだ」、「ノート作りに取り組んだ」、「単語をしっかりと覚えた」、「友人と英会話をした」、「本文を全訳し、重要表現を復習した」、「文法を復習し直した」等が挙げられております。学期の始めに、「必ず、毎日英語に30分以上は接するように」と勧めました。これが、英語力を向上させる動機づけに多少は役立ったのではないかと自負しております。今後は、「アンケート」で学生の意見を取り入れたり、「学生一人一人と直接意思疎通」をしっかりと図りながら、学生の英語力の向上を目指して、なお一層、努力してゆきたいと存じます。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	122

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①看護師国家試験受験資格を得るための必須科目であり、1年生にはかなり難しい科目である。そのため科目の狙い・到達目標を講義初回にシラバスを使い詳細に説明した。また、科目の狙い・到達目標は、授業進行中にも繰り返し説明した。</p> <p>②興味関心を継続させ、講義内容の理解度を上げるため、タイムリーに発生している感染症の事例をあげ、教科書と平行させて講義を行った。</p> <p>③一人一人の講義内容の理解度を把握するために、講義途中に学生に質問を投げかけ、挙手により反応をみた。理解度が不十分な箇所は繰り返し説明した。</p> <p>④昨年度からの課題である自主学習の時間確保に向けては、レポート作成に複数の図書・文献を使用することを評価項目にあげ、図書館利用度をアップさせるよう試みた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>① 総合評価の平均値は70.3点(±11.0)であった。過去2年と比較し、標準偏差はほぼ同じで、平均点は約5点アップした。88%の学生が標準的レベル(60点以上)に達しており、理想レベル(80点以上)に達した学生は20%(25名)と昨年の8%に比較増加した。また、再履修者も83%が標準レベル、33%が理想レベルに達していた。国家試験レベルのミニテストの平均得点は65点(100点に換算)であった。</p> <p>②知識理解の達成度は88%で、自由意見より、「予習・復習した、課題プリントにそってまとめた、新たにノートを作成した、自分で問題を解いた、図書で調べた」など多くの学生が主体的に学習に取り組んでいる様子がわかった。”自分なりの目標を達成した平均値4.3”、“知識を確認、修正、新たに得ることができた4.7”、“専門分野の学びを深めたいと意欲をもつことができた4.7”であった。思考判断の到達度は82%で、“専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.7”、“専門分野において的確に判断する力を得ることができた4.6”であった。</p> <p>③授業の質評価では、“テスト・課題レポートの評価基準が明らかに示された平均値4.6”、“説明は理解しやすいものであった4.6”、“自分の意見をまとめる・話しあう機会が作られた4.4”、“学生の質問を受けつけ答える機会が作られた4.6”であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は看護専門基礎科目である。専門科目につながるための基礎知識を培う科目であり、1年次に学ぶ内容としては妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 初学者としての1年生が学ぶ科目としては、難しい科目である。しかしながら、学生の知識到達度、思考判断の到達度から見て、講義工夫により学生の到達度が良好であるため内容としては妥当であった。</p> <p>③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当であると考え。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①学生の自由意見から、多くの学生が主体的に学習に取り組んでいることがわかった。1回に30分以上の予復習を2回以上した学生は82%、6回した学生が38%、新たにノートを作成した学生は30%いた。自発的に学習した学生が67%いる一方、予復習に1回も時間をかけなかった学生は、8%と昨年の10%とほぼ同じであった。昨年度同様、講義姿勢など注視し、学習が低迷している学生についてはゼミ担当者と連携し対処したい。</p> <p>②今年度は図書・雑誌を利用した学生が57%、インターネットを利用した学生が55%、学術データベースを利用した学生が38%いた。学生の自由意見からも”文献を読んだ”、”テレビでみた感染症を調べた”、”指定図書を読んだ”、”本を何冊か読んだ”など学生の主体的学習が進んでいることがうかがえた。授業改善に効果が認められたことから次年度も今年度の改善を継続する。</p> <p>③学生の意見で”ホワイトボードは見づらいので黒板に板書を”との要望が出ている。パワーポイントと教科書を並行しながら講義を進めるため、板書する際に、スクリーンを上げ下げせねばならず講義時間にロスが発生する。学生にはホワイトボードを利用しなくてはならない理由を説明するとともに、ボードに字を大きく記載するようにする。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門基礎科目としての本科目の位置づけから、看護に必要な知識及び課題を解決するための思考判断の到達目標はかなり達成できた。学生からは”難しいがわかりやすい”、”看護師の学習の基礎となる学習であり、確実に定着させたい”という意見があがっている。学生の学びへの意欲と授業改善が合致した結果と思われる。次年度も今までの授業改善を継続するとともに、国家試験を意識したミニテストの達成度が上がるよう授業工夫をしたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護のための臨床検査	2	前期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>臨床検査は、診断の確定、重症度の判定、治療効果の判定など、臨床経過の様々な場面で重要な役割を果たしています。看護師が自分で検査を行うこともおおく、検査データから患者さんの病態を把握することは看護師に必要な臨床力です。看護師国家試験にも検査に関する問題は出題されます。</p> <p>本科目では、血液検査や尿検査だけでなく、レントゲンなどの画像検査や心電図などの生理検査など幅広い内容を対象としています。主要な検査項目の意味やデータの解析を説明するだけでなく、心電図、超音波、肺機能、検尿などの演習を行って臨床現場で「現物を初めて見た」と戸惑わないように工夫しました。また、授業の後半では疑似症例の検査データを提示して、そこから病態を把握する方法を解説しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、授業を受けて本科目の内容が看護業務に直結するものであることを、学生さんは十分に理解してくれたものと思います。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験の平均値は79.5点(最高100点、最低54点)であり、秀:18名、優:32名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の48%でした。60点未満の再試対象者は3名で、再試を受けた1名は再試で60点以上でした。再試を受けなかった2名は次年度に再履修してもらいます。</p> <p>今年度も試験に教科書の持ち込みを許可し、教科書を見ながら提示された検査データを解析して患者の病態を把握する問題を中心に出题しました。知識理解だけでなく、思考判断の力を評価する問題になったと考えています。その結果、知識(暗記力)を問う設問では高得点の学生さんが、病態把握の設問では点数が低かったり、その逆のケースもありました。知識と思考をバランスよく身に付けていく必要性を学生さんも実感してくれたと思います。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの観点において「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。自由記載では、心電図などの演習が好評でした。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。上述のように、臨床検査に関する知識や検査データから病態を把握する力は、今後の看護科目の学びや将来の看護師業務に必要不可欠です。</p> <p>試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度より演習に超音波検査を取り入れました。看護過程論で心不全を勉強しているタイミングで心臓の超音波を見て貰うことができました。授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあさうだと思ふ」以上の評価を得ています。自由記述でも、演習を行ったこと、症例を使用して病態把握の解説をしたことは肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思ひます。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは三分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは一割程度でした。次年度は学生さんが自分から勉強したり調べたくなるような講義内容になるように努力したいと思ひます。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、ほぼ全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 個々の検査に関する説明を行うだけでなく、心電図などの演習を行い、検査データから病態把握をする方法を解説したことは学生さんの臨床力を養うために有効であったと考えます。 試験は昨年度と同様に教科書の持ち込みを許可し、検査データを解析して病態を把握する問題を中心に出题しました。学生さんの知識だけでなく、思考・判断の力を評価することが出来たと思ひます。試験結果をみると、思考・判断の力が弱点であると感じました。これからの大学生活で、目の前のデータから物事を考える力を身につけていって欲しいと期待します。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>当該科目は「必修科目」(100%)であり、「資格取得に必要」(9.0%)な科目であるため、学生は履修せざるを得ず、学生にとっての「関心のある内容」(3.0%)とは考えにくい。こうした準備状況にある学生の主体的学修を促すために、昨年度と同じく、今年度も、①看護学科独自のSNS(kaname.net)を活用した授業進行・授業内容の具体的イメージ化、②学修到達目標とグループワークの進捗状況に照らした効果的な講義・グループワーク運営、③学生の主体的な学習参加と予/復習の推奨を目的に、授業で使用する教材(講義資料等)は全て事前にkaname.netにupし、原則、授業中の資料配布は行わない、また学修を振り返るための「小テスト」を準備、④学生の理解度や質問等の有無を確認するための講義終了時のメッセージカード提出などを実践した。④への応答は、個人に向けてはカードへのコメント記入、全体に向けては次週授業開始時に伝達・共有を図った。さらに、⑤学生個々の動機や意欲の高揚、終講までよい意味での緊張感を維持するために、学習成果発表を含め、積極的にグループ間ディスカッションの機会を設けた。また、⑥学生が自らの学修活動を客観視し、学修目標の達成状況を具体的に確認できるように、昨年度取り入れた「グループワーク振り返りシート」による観点別評価も、適宜、実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>筆記試験の平均点は73.3±9.51点で、昨年度を9ポイント以上上回っており、全体としての目標達成状況は昨年度を大きく上回っていた。問題は標準レベル(70点以上)を基準に作成しているが、今回、標準レベル以上の者は48/102(26/98)名、うち理想レベルに達した者が24/102(9/98)名、一方、努力を要する「可」レベルの者は21/102(36/98)名、筆記「不可」の者は9/102(27/98)名であった(カッコ内は昨年度筆記試験結果)。</p> <p>科目としての最終評価は、筆記試験(50%)、個人学習(20%)、学習成果発表(10%)、記録および学習貢献度(20%)による総合評価としているが、総合評価のクラス平均は、72.5±7.06点(最高90点、最低48点)で、102名中の合格者は97(87)名、再試験該当者は5(11)名の結果であった。なお、再試験該当者5名については、後日、筆記による再試験を実施した結果、受験者5名中3名が合格、残り2名は60点に達せず不合格とした。従って、最終成績の内訳は、秀0名、優17名、良55名、可28名で、2年生102名(再履修者1名を含む)中100名(再履修者1名を含む)が2017年度当該科目の履修を修了、2名が再履修となった。筆記試験の結果より、昨年度と比較して知識理解(DP1)、思考判断(DP2)の到達度は高いと考えられる。しかし、グループワーク学習貢献度や学習成果発表での技術力、表現力、説明力という観点からは、態度(DP4)、技能表現(DP5)の到達度は、昨年度よりも「低い」との印象をもった。</p> <p>授業評価アンケートの結果は、学習到達度を「自分なりに目標を達成した」と自己評価した学生はクラスの99.0%(100/101名)を占めており、その内訳は「かなりそうだと思う」(19.0%)、「わりにそうだと思う」(54.0%)が全体の73.0%、「まあまあそうだと思う」(26.0%)を含めれば、学生は目標を「ほぼ達成できた」と評価していた。2年生102名のうち、優:16.7%、良:53.9%の評価結果と合わせて、今年度当該科目の内容妥当性は概ね確保されたと考え、全体を通して「やや達成された」と判断した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性</p> <p>「看護過程論」では、看護師の思考の軸となる「問題解決的思考」や「クリティカルシンキング」を学修し、看護実践方法論としての「看護過程」展開の基本を学ぶ。2年次後期以降の「看護実践の応用・展開」の基盤となる科目であり、基礎と応用をつなぐという意味では「要」の位置にある。3月「基礎看護学実習Ⅰ」での臨床看護を通して、学生は看護者を目指す自らの強みや課題を自覚する。実習での気づきが2年次前期からの各看護専門科目への興味関心につながり、学習動機を高めるきっかけとなる。学生のこうした学修準備状況を踏まえて、事前学習課題を提示したり、授業参加への工夫をすることにより、学生の主体的・積極的な学修への取り組みに繋げることができたと思う。また、CP、カリキュラムマップ上の位置づけにも対応した内容であったとも考える。よって、全体を通して「やや達成された」と判断した。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容妥当性</p> <p>シラバスに記載した【知識理解】【思考判断】【関心意欲】【態度】【技能表現】それぞれの行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.2)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.1)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業は、学習到達目標と照らしつつ、グループワークの進捗状況に合わせた講義とグループワークの組み合わせで実施した。事前準備としての課題学習は、多くの学生にとってその後の自主学習を促すきっかけになったようで、昨年度を大きく上回った図書館利用(85.1%)とインターネット利用(81.2%)が、それを裏づけている。</p> <p>授業の質評価においては、5項目中、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.2)が高く、「説明は理解しやすいものであった」(3.6)が最も低かった。各評価項目の平均値は全体的に昨年度より0.1ポイント程度低く、学生の主体的学習を促す教員側の働きかけに十分な理解が得られたかについては「どちらとも言えず」課題が残った。</p> <p>学生の意欲関心という点では、昨年以上に看護学科SNS(kaname.net)の利用者数は多かった。昨年度同様、後になるほど繰り返し閲覧し学びを深めようと努力する学生が固定化していた。学生の中には、初回の閲覧で途中放棄し、そのまま閲覧しなかった者もいた。自主学修に進んで取り組む群、自主学修に消極的な群が明確に分かれたクラスの特性が見てとれた。</p> <p>2年生全体の【意欲関心】【態度】について、自由記載欄には、教員各個人や領域の指導体制への批判的な意見—例えば、担当者による進捗・意見の違い、指導時間の長さの違い、非常勤講師への不平・不満、班編成へのクレーム、指導内容への不満、テスト勉強ができなかったことへの不満、など—が、例年になく多数(38件)書き込まれており、不満・整いも、モチベーションを落として、毎生「先生によってやる気が違ってくる」と感じている。担当する教員間の意見統一がなされていない「指導</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業評価アンケートの結果より、科目履修後の学生は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.2)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.1)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.0)、そして「自分なりの目標を達成した」(3.9)と評価しており、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」のうち、知識理解、思考判断は「概ね達成された」と考えている。一方、態度、技能表現については、グループワークや学習成果発表時の状況から「やや達成されていない」と思う部分もあり、学生の「自分なりの目標を達成した」(3.9)と合わせて「どちらともいえない」と判断した。</p> <p>授業の質評価においては、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.2)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.2)の2項目が4ポイント以上で、残り3項目は、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(3.9)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(3.8)、「説明は理解しやすいものであった」(3.6)と例年より低く、自由記載欄の教員や指導体制への批判的意見を反映していると考えられた。従って、学生の意欲関心という点については、学生の主体的学修を促そうとの教員側の意図が学生に十分受け入れられたかも含めて「どちらともいえない」と判断した。</p> <p>看護師の思考の基盤となる「看護過程」について、2年生全体では、その学習到達度を「自分なりに目標を達成した」とする学生が99/101名(98.0%)であった。その中訳は「かなりうまくいった」(19.9%)、「おもしろくも思った」(79.5%)が全体の79.9%、「まあまあよかったと思う」(95.7%)も含めると99.9%で、目標は概ね達成できた。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学概論	1	前期	必修	いいえ	119

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①入学後最初の看護専門科目であり、受講動機は「関心のある内容である」は2.8%と低く、看護専門科目に対する初学者であることを考慮し、身近なところから看護を考えさせるようにしている。その一つとして、同世代の友人たちに「看護をどう捉えているのか」についてインタビューさせ、その結果を発表させるなどして関心を高めている。また、看護に関連した新聞記事等を紹介することも行っている。</p> <p>②すべての学生に課題に関するグループ発表をPPを用いて行うことを課し、入学後他学生を知ることも必要との観点から、協力して活動させている。発表については、回を追うごとに発表技術は向上してきている。</p> <p>③1年次から学習の習慣をつける目的で、基礎学習ゼミと連動して学生にポートフォリオを作成させている。</p> <p>④中間点でまとめをしてほしいという声を昨年から受け、8回目に小テストを行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績評価平均値は72.7点であり、再試対象は4名であり、最終的に再履修者はなかった。80点以上は23名(19%)であった。</p> <p>到達度自己評価において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」項目の平均値4.5と高値であり、2回のレポート評価においても全員がA段階であったことを勘案すると行動目標は達成したと考えられる。「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」項目平均値4.4をはじめ、到達度自己評価はすべて平均値4.2以上であった。</p> <p>学習量の評価において30分以上の予習・復習を2・3回以上行った学生は70数名で半数以上となり、自発的に学習に取り組んだ学生が32%いた。また、図書館は半数弱が利用した結果となっている。学生の自由記述を見ると、興味ある分野について調べた、ノートまとめなど書かれており、ポートフォリオの作成もいくらか功を奏したと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・看護実践の基礎」に位置し、学生が入学後初めて学ぶ看護専門科目であり、必修科目である。看護の初学者であることから、身近なことから、また新聞等の看護に関わる話題から考えさせる、またグループワークを取り入れ発表を行う等の工夫をし、学生も一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 到達度自己評価において、「知識理解」(DP1)に関する「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」平均値4.3と高く、成績評価において再履修者はなく平均72.7点であり、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目の平均値4.4と昨年度より高く、他の3項目についても4.0以上であった。</p> <p>授業の質評価においては、一番平均値の低かった項目が「説明は理解しやすいものであった」(平均値4.0)であり、今後説明についてわかりやすいものとしていくように努力したい。</p> <p>授業時間をオーバーしたことはなかったと思うが、看護学概論はさまざまな看護の領域を学ぶため、それを消化するために時間を要し、授業内容が多くて時間が足りないという表現になったことは理解できる。わからないところは聞きに来てほしい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>入学後初めて学ぶ看護専門科目であり、その後の看護専門科目の基礎となる科目である。看護全般に関する基礎的知識の理解等の行動目標については概ね達成できたと考えられる。看護専門科目に関する初学者であることを考慮し、教授内容も厳選し、わかりやすくすることを心がけていきたい。</p>
-------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	村瀬 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護基礎数学	1	前期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 入学当初に、看護科の学生として必要最低限度の「計算力」を持っているかどうかの評価テストをしているが、その際に「計算力」についての自己分析や授業に対する要望・期待などについてのアンケート調査を実施している。その結果を重視して、学生の要望・期待に応えられるよう授業計画を立てて授業を行っている。特に、学ぶポイントを絞り、焦点がぼけないように努めている。</p> <p>② 学生の数学に対する苦手意識が、それまでの数学の学習を妨げてきた大きな要因なので、学生の一人一人が単なる「学び直し」ではなく、大人の目線での理解に裏打ちされた知識や技術を新たに身につけていくという実感を持てるように、またそのことが自信となるように努めている。</p> <p>③ 高校までの数学の授業の中で数値計算の速さ・正確さを求められてきたためだろうが、学生の殆どに複数の数値をデータとして概観・俯瞰することや、データとして見たときの傾向の分析・比較などをやる感覚が身につけていない。このため、授業では、複数の数値をいろいろな面から見て、目的に応じて自由に扱う実習(種々の計算)をしながら、学生自身が持っている単なる「単純計算の対象としての数値や数値計算」という固定観念をほぐすことに努めている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>① 入学当初に、「基礎計算力」を持っているかどうかの評価テストをし、その結果を詳細に分析を行っているが、その結果と期末試験との結果の比較がその根拠である。※この授業では評価テストでD段階、C段階の下の学生は指定して受講するように指示をしているが(それ以上の段階の学生でも受講希望者は受け入れている)、D段階6名が期末考査ではA段階1名、B段階3名、C段階2名となり、C段階の27名のうち10名がA段階、11名がB段階になった。</p> <p>② 到達度自己評価において「自分なりの目標を達成した」の項目の「かなりそうだと思う」～「まあまあそうだと思う」という肯定的な評価をした学生が全員であったこと、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目の「かなりそうだと思う」～「まあまあそうだと思う」という肯定的な評価をした学生も全員であったことも根拠である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、国家試験のための計算スキルの習得はもちろん、看護学科での学びに必要な最低限の基礎計算力とそのための基礎知識・技術の習得を目的としている。また、これから学ぶ疫学・統計学などの数値の見方、実用的な扱い方等の基礎を身につけることも目的としている。</p> <p>学生の数学に対する苦手意識や拒否感等は長年に渡って算数や数学の授業を受けることで培われたものであり、学生が看護学科の専門科目の学びの中で出会う数学的知識や技術を要する局面で、ネガティブな姿勢になりがちなることは容易に想像できる。実際、入学時の「評価テスト」から、多くの学生が、高等学校でのみならず、小学校や中学校で習得していなければならないことがなされていないことが多くあることが分かるが、この欠陥・欠点を克服しなければ、多くの学生が、看護学科の種々の専門科目において、その内容を十分に習得できないことが連鎖的に出てくることが予想できる。</p> <p>また、高校時代までその内容が上級になればなるほど抽象的なものとなって、学生が数学の実用性を実感できなくなっていることから、数学を実用的に用いる感覚が身につけておらず、従って実用的に用いようとする意欲が低い。(方法が解らないのも一因)</p> <p>以上のようなことから、本科目の内容は、看護科入学初年時の前期に受講するのに妥当な内容であると思われる。このことは、学生の授業評価の指標の中の「受講動機」「担当教員への意見」の内容からも裏付けられている。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度の授業は学生からのアンケート重視の観点から、学生が一番苦手であり、学生が専門科目の授業理解のためにも強化したい分野である割合計算・濃度計算・単位を特に重点的に丁寧に進めた。昨年も、同様の方針で授業を進めたが、後半になって授業時間が不足する事態になったので、今年は、特に授業の進捗状況には特に配慮した。今年度は、テキストの大きなやり残しは殆どなかったものの、やはり、後半は急がざるを得なくなり、そのことに対する学生の批判が「担当教員への意見」として述べられている。このことについては、大いに反省しなければならないが、昨年度と同様、今年度の強化した部分は、学生にとって他科目の学習・履修に是非とも必要などあり、限られた授業時間の中では結果的にある程度の成果をあげることができたのではないかと思う。</p> <p>学生の意見として、「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」のうち、「授業内で理解できたから」「することがなかった」という意見が多いことは、本科目の授業を「できるだけ授業内容・演習は授業中に完了する」というコンセプトで行ったことが大きな理由だと思われる。一方、演習不足の感は否めないもので、自主的に演習ができる問題集等が必要であることを大いに感じた。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>今年度の実施した授業内容に対する達成状況は、全体的に、ほぼ目標通りであり、昨年度より達成度は向上していると評価している。しかし、当初の予定に対し、時間の関係で授業で十分に扱えなかったところが出てしまい、その部分については改善しなければならないと考えている。</p> <p>また、本科目が最終的に知識の理解と技術習得を目標としているだけに、どうしても授業の形態が講義型の解説と個人演習の繰り返しになりがちで、学生同士の教え合い、学び合いの時間を授業時間中に殆ど確保できなかった。学生の教え合いや学び合いこそが、知識や技術の定着に大きな役割を果たすだけに、これらの時間を、どう効果的に設けるかの工夫が必要だと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護技術論	1	前期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は保健師・助産師・看護師免許取得のための必修科目である。学生の受講動機を見ると「必修科目である」が100%となっており、また、「資格取得に必要である」を選択した学生は8.7%と少ないが、免許取得に向けた意識が高いことが推察できる。授業内容は、看護師国家試験問題を確認し、その内容に関連するものを取り入れた。また、看護の現場で実際に起こりうる問題を解説するなど、授業内容の理論が理解できるよう考慮した。</p> <p>②本科目を受講する学生は入学して早々の学生であるため、医学的知識や看護師になる心構えが備わっていないことを予測し、講義内容をわかりやすく解説するよう努めた。</p> <p>③講義内容(コミュニケーション技術・環境)と関連した内容の演習を行い、授業時間中の技術の体験と、自己学習を促すことにより技術の習得を目指した。</p> <p>④授業の予習や復習として、また、授業内容を体験により理解するためという目的で、体験型のレポートを課した。</p> <p>⑤授業内容の理解が得られるよう、前回の授業終了時に次回の内容についての教科書の該当部分を示し、事前学習することを勧奨した。</p> <p>⑥本科目の内容の一部として2日間の早期看護実習を実施し、終了後には「実習の学び」レポートとして提出を課した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合点の平均値は70(±9.4)点で、標準的レベルに達していない学生は9名(7.8%)、理想的レベルに達した学生は44名(38%)であった。知識・理解は筆記試験で確認し、筆記試験の平均値は74(±9.6)点(最高99点・最低52点)で、標準的レベルに達していない学生は3名(2.6%)であった。意欲・関心は早期看護実習終了後のレポートで、技能・表現はポートフォリオの充実度合や授業中の態度等で確認した。評価の割合は、筆記試験が60%、レポートが30%、レポート外の提出物5%、その他5%であったため、総合点での評価が標準的レベルに達しなかった学生が9名となっている。さらに、標準的レベルに達しなかった学生に対して筆記試験での再試験を行ったが、最終的に3名が標準的レベルに達していない状況である。</p> <p>学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」以外の項目では「かなりそうだと思う」が60%以上であるが、「自分なりの目標を達成した」の問いに対しては、「わりにそうだと思う」が42.2%、「かなりそうだと思う」が46.6%と、ほぼ半数ずつとなっていることから、確実に達成したと感ずる学生が全体の半数に満たなかったといえる。</p> <p>学習量の評価では、予習について0回および1回と答えた学生は合わせて18名(15.5%)で、2・3回以上が26%程度とほぼ同数であった。復習については、1回と答えた学生が予習と同じく18名(15.5%)で、2・3回と答えた学生が44名で37.9%と最も多かった。一方、課題以外の学習は70名(60.3%)が取り組んでおり、演習で行った技術の復習を行っている。</p> <p>上記のことから、演習で行った技術は自己の課題が明確になるため復習として取り組みやすいが、机上の学習では、学習時間はとっていても1年生という看護学の初年度であるため、必ずしも十分に復習できていない可能性がある。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容妥当性 本科目は、看護学科の専門教育科目として必修の科目であり、看護実践の基本となるものである。また、本科目を修得していることが、3年次後期からの領域別実習のために必要な履修要件となっている。学生の受講動機からは、免許取得に必要なこととの意識が高いことが示されており、総合的な成績では大多数の学生が標準的レベルに到達していることから、内容的には妥当と考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容妥当性 最終的な成績で標準的レベルに達していない学生がいることから、必修科目としての重要性を感じていない可能性があり、次年度に向けて検討の必要がある。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容妥当性として机上の学習における問題があり、次年度に向けて検討する必要がある。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の自由記述には、早期看護実習を通して、「今後に活用できる体験ができた」や「より看護を深めることができた」という意見があった。その他の意見では、授業の資料の誤りやスライドを流すのが早いという指摘が合わせて5件あった。最終的な成績として標準的レベルに達していない学生がいることから、重要な部分について意識を持たせるように強調したり、時間をとって説明したりするなど、講義方法の工夫が必要である。また、「授業の質の評価」では、全ての項目で「わりにそうだと思う」と「かなりそうだと思う」と答えた学生が77%以上であったが、質問への応答の機会についての項目では、「全くそうでないと思う」と「少しそうでないと思う」と答えた学生が12名(10.3%)であったため、看護学科のインターネットシステムを利用していつでも応答できるようにするなど、今後の工夫が必要である。</p> <p>早期看護実習での「実習の学び」レポートについては、事実のみの記述に終始し、本科目の行動目標の一つである「看護が果たす役割についての自分の考え」を記述できていないことから、内容が充実していないと判断し評価が下がることが多かった。実習前オリエンテーションで記述内容について説明しているが、理解できていない、または、書く力がないことが考えられる。情報利用については、シラバスは95名(81.9%)の学生が利用しているが、図書館等すべての項目では「利用した」と「利用しなかった」がほぼ半数となっており、利用するメリットを理解していない可能性がある。このことから、情報利用を授業の中に取り入れ、レポートの記述内容についての十分な説明と考察力・記述力の訓練が必要である。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、保健師・助産師・看護師免許取得のための必修科目であり、看護学科の専門教育科目である。また、本科目を習得していることが、3年次後期からの領域別実習のために必要な履修要件となっている。</p> <p>最終的な成績として大多数の学生が標準的レベルに達したが、早期看護実習のレポート記述については課題が残った。</p> <p>本科目の内容は、「コミュニケーション技術」と「環境」であり、看護実践の基本となるものである。また、受講者は看護の初学者であることから、必修科目としての重要性の認識を持たせることと、ポイントを明確にし興味を引き付ける内容にしていく必要がある。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護形態機能学 I	1	前期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学に入学し最初に受講する基礎医学知識に関する講義であり、学生の基礎知識(高校生物履修の有無)にも差があることが予想され、また受講動機にあるように必修科目であることから興味の有無と関係なく受ける科目であったので、</p> <p>①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。</p> <p>②また一方向性で知識を講義する形は避けられないため、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的にを行うようにした。</p> <p>③内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、復習の支援と促しとして、前回講義の内容の一部について小テストを行った。</p> <p>④前期終了時に講義に関する要望や感想について自由記載のアンケート(レポート)を行った。</p> <p>⑤折に触れ、医療に関するニュースや実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>前期試験の平均点は74.7点であり、標準的なレベルに到達していると考えられた。</p> <p>到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた。と評価した学生は90/116人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた。とした学生は84/116人おり、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかったことは、上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうが、講義内容の特性上、双方向性のやりとりは行いにくく、授業の質評価において、(4)自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。</p> <p>毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、事前30分の復習の促しには繋がったと考えられたが、その範囲は限定的であったかもしれない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルの工夫も必要と考えられた。</p> <p>到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し、「かなりそう思う」とした学生が75/116人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにもかかわらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。 学習の記録については、講義に沿い、教科書内に書き込むことを勧めたが、他の教科においては、ポートフォリオ作成を指導されており、全体としての学習方法としての一貫性について再考する必要があると考えられる。 前期講義最終日に行ったアンケートにおいて、国家試験対策を希望する声も比較的に見受けられたことから、後期の小テストでは、国家試験の過去問などを取り入れ、講義で学習した内容の定着と多面的な理解の必要性について実感できるよう工夫をしたい。 また、一年生で学んだ基礎知識が、以後の臨床系の講義や実習の基盤になることを伝えながら、いかに短期記憶として表面的に知識を丸覚えするのではなく、物語として、その因果関係を、疾患の理解・検査の意義の理解・ケアにつなげていくかを意識しながら学生が学べるよう、今後工夫を重ねたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>学生たちの中に、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力が見受けられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持を支援できる工夫を今後重ねていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護研究の基礎	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①4年生になって、全員が看護研究演習を目指すわけではなくなくなっていることに加え、科目名から何を学ぶかをイメージしにくいことが課題の一つとしてあげられる。今回の受講動機をみると「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」5.7%、「関心のある内容である」2.3%という内訳であった。単位数を確保する、GPAをあげるがそれぞれ1.1%であった。授業の中で関心を引き付けることは昨年に引き続き大きな課題である。 ②3年前期の講義で各論実習を経験していないため、学生は看護研究の必要性や研究課題への気づきが難しいようであった。そのため、看護臨床の場を想定した説明に留意し、看護職に研究的思考が必要であることへの気づきを促した。難しい・苦手というイメージが強いようなので、できるだけ解りやすく平易な言葉を用い授業を進めるように心がけた。 ③グループでテーマを決めた内容にそって研究論文を検索し文献カードを作成させた。最終的に研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.64(±8.6)点であり、再試対象はいなかった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは45名であり、半数以上がこのレベルに達することができ、昨年度の23名に比較するとよい成績であった。成績の内訳は、A(秀)が3.3%、B(優)が46.7%、C(良)が31.1%、D(可)が18.9%であった。 目標別に見ると、知識理解に関しては70%、思考判断に関しては70%、関心・意欲に関しては70%、態度に関しては80%という結果であった。研究というものに対する関心があまりないところからの出発であるが、患者のために看護研究は必要であることが理解できると、自分たちの興味・関心のある中から研究課題を見つけようとしていた。臨地実習からは1年以上離れ、課題を見つけるのも容易ではないため、課題発見へ次年度にむけて検討したい。 学生による授業評価において、もっともよかったことは、図書館の利用が80%であったことである。文献検索をして文献を読み、文献カードを作成する。この一連の作業は、知識確認、思考判断とつながっていく。文献をもっと読むことでこの能力は高められ、研究計画書もより良いものに仕上がる。昨年は、一つの論文を読むことで精いっぱいようであったが、今年度2つ以上読むように促すとほとんどの学生が読むことができていた。もっと文献を読むことができるようにし、研究に関心を持つ学生が増えるように内容を検討していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。しかしながら領域実習に出ていないので、看護における研究の意味や必要性がわからないままという学生が多い。授業の中で、看護における研究の必要性を理解していく中で、研究の面白さに気づく学生も出てくる。研究をやってみたいという学生も少なからず出てくる。領域の実習に出る前の時期に研究的思考を身につけることができるため、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から思考判断、関心・意欲、態度に関しておおむね達成された。グループで研究課題を考え、教員の指導のもと、一つの研究計画書を作成することができた。初めての取り組みであるため、グループ活動は効果的であったと思われるため、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.3とやや低かった。15コマの中に講義と演習を入れているので、講義内容が盛り沢山になってしまったと思われる。知識を定着させるような課題の出し方の工夫が必要だったと考える。次年度は、限られた時間の中で教授内容を検討し、わかりやすい説明を心掛けたい。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均は3.8と高かった。グループでの意見交換は十分にされたのではないかとと思われる。次年度は、思考判断がより反映される様な研究計画書の内容の充実を図りたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>看護職にとって、研究的思考を持つことは患者のためにより良い看護を行うために必要なことである。しかし、3年前期の学生は、後期からの領域実習のことで頭がいっぱいである。本科目の重要性を学生に認識してもらい、担当教員は適切な指導を行わなくてはならない。実際に研究計画の指導に当たる教員は、興味がわくように指導をしていただく予定である。</p> <p>研究が初めてである学生がほとんどなので、研究アレルギーにならないように支援したい。研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援したが、もっと研究論文に触れさせる機会を多くつくるなど、学生が研究に興味を持てるように授業改善をする必要がある。研究的思考は、本科目で初めて取り組むというのではなく、他の科目でも折に触れ話していくものではないかと思う。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
緩和・終末期看護学	3	前期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門教育科目として看護実践の展開・応用にあたる科目であり、既修のすべての科目を基盤にしている。すべての発達段階の人々を対象に、がん・緩和・終末期看護という独自の知識・思考を新たに学ぶ科目である。がん看護においては、3年次後期からの実習に直接的に活用できる知識であり、臨床での事例や最新の治療、具体的な看護方法などを組み込みながら、がんとともに生きるひとの全人的な理解を目指してわかりやすい解説を意識した。また、理解の促進および関心を高めるために、講義終了時に質問や感想を自由に記述してもらい、次回の講義の初めに応答するように工夫した。本年度は小児の緩和ケアについても専門性を踏まえ具体的に解説した。緩和・終末期看護において学生は「死」のイメージを「暗く怖いもの」として受け止めており、死は誰にでも訪れる身近なものであることを解説し、死生観が深まるよう努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な平均点は78.8点、最高94点、理想的レベル(80点以上)が46名(50.26%)であった。再試験受験者2名で、全員標準レベルに到達出来た。目標別到達点は「知識」82% 「判断」71% 「関心・意欲」は94%であった。終末期看護やがん治療は年々進歩しており、その特殊性においては十分な理解には至っていないと言える。到達度自己評価ではおおよその項目が94%程度の肯定的な評価であったが、学びを深めたいという意欲、コミュニケーション力や表現力を高めることが出来という評価は低く、講義スタイルによるものと考えられる。科目の性質上、技術演習を取り入れることは困難だが、意見交換や事例検討などの場を設け、表現力や思考を深める工夫が必要である。以上を総合判断すると、教育目標は概ね達成できたが、授業の運営や展開に課題を残している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は5名と少なかつたが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目の行動目標として①がん治療における看護援助②終末期にある患者とその家族の特徴③緩和・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助④緩和・終末期医療におけるチーム医療の在り方⑤死をめぐる倫理的課題⑥小児の緩和・終末期医療と看護をあげ、これらを述べる事が出来るとしている。最も重点を課している「知識理解」が71.7%であり、目標は概ね達成されており妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による自己評価到達度や、授業の質評価は昨年より向上している。しかし、学びを深めたいという意欲、コミュニケーション力や表現力を高めることが出来という評価においては前述のような授業の工夫が必要とされ、今後の課題である。また学習量においては46.5%が予習・復習を行っていない。また授業の記録をしていない学生が4名おり、主体的学習のための課題提出も今後の検討課題である。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は専門教育科目の応用・展開科目ではある。目標は全般的に一定の達成度を得たが、学生の思考を活性化させるような教育上の工夫が必要である。学生・教員間での意見交換ができる機会(ディスカッション、発表、質問など)を積極的に講義内に組み込むことや予習・復習の促進や関心を高めることにつながるような課題を課すことも検討していく。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎学習ゼミ I	1	前期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「必修科目」(100%)であり、学生に選択の余地はない。従って、学生にとって「資格取得に必要」(1.8%)とも「関心のある内容」(0.9%)とも考えにくく、また、「単位数を確保する」(8.2%)、「GPAをあげる」(1.8%)ともつながりにくい。「友人が履修している」(0.9%)との受動的な一面も見える。</p> <p>昨年度に引き続き、初年次教育としての学修目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で主体的に学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)を強化・鍛錬する有効な機会とする。 2. 社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チーム力)の育成・強化を意識しながら関わる。 3. グループ活動を通して、学生が自らを客観視したり、自身の在り方や行動を意識的に振り返る機会となるようにする。 4. 他者と良い関係を築くうえで必要となる自らの態度・姿勢・行動について、必要な行動変容につなげられるように支援する。 5. 大学での学習・生活スタイルの確立に向けて、学生が自ら問題解決を図る適切な手段・方法を見出せるように支援する。 <p>以上が、基礎学習ゼミ I に関わる教員間の共通認識であり、学修支援の方向性として目指しているところである。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>当該科目の達成度評価は、授業貢献度:40%及び課題成果(学修ポートフォリオと課題レポート):60%による総合評価で行っている。最終的な成績の平均値は83.41±7.92点(最高94点、最低18点)で、1年生116名中115名が履修を修了した。最終成績の内訳は、秀20名(17.2%)、優74名(63.8%)、良20名(17.2%)、可1名(0.9%)、及び不可1名(0.9%)であった。不可1名については、学期途中6月頃より欠席が目立つようになり、途中、保護者との面談など、改善を試みはしたが、本人の「大学になじめない」「高校生活とのギャップに適應できない」「話せる友だちがいない」等の理由により、前期末まで不安定な状況が続いた。結果、授業出席日数・時間の不足により、再履修となった。後期に入ってから、何事もなかったかのように大学生生活を継続しており、来年度新入生とともに仕切り直しの受講となる。</p> <p>学生による授業評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.8)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.6)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.5)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3)と、「職業選択の参考になった」(3.6)以外はいずれも昨年度を優る高値で、これらの結果からは、本科目で「学生が達成すべき行動目標」は、全体を通して「達成された」と判断する。さらに、1年生116名中、良以上の学生が114名(98.3%)の結果からは、看護学科初年次導入教育と位置づけられた当該科目が果たすべき役割(受動から能動、主体的・積極的学習者への変換)は、「知識理解」「意欲関心」において「達成された」と考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、看護学科における初年次教育の一環として、看護系大学での学び方の獲得と学生生活支援を目的とする「看護を学ぶための基礎」に位置づけられた科目である。「学生が達成すべき目標」には、学科のそうした意図が十分に反映されており、学生に期待される成果も、1年生116名中、優以上が94名(81.0%)と、学生の多くが理想的レベルに達しており、また、全体の98.3%が標準的レベルをクリアできていることから、内容的妥当性は保証されていると考える。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容的妥当性</p> <p>本科目は演習中心の科目であるため、筆記試験は実施せず、授業貢献度:40%、課題成果(学修ポートフォリオ及び課題レポート):60%に基づく総合評価として評価を行っている。科目履修後の学生の評価は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.8)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.6)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.5)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3)と、いずれも前年度を超える高い評価を得ており、行動目標から見ても内容的妥当性は高いと判断する。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においては、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.9)と極めて高い評価を得た。他の評価項目についても、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.7)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.7)、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.6)、「説明は理解しやすいものであった」(4.4)など、どれも昨年度同様の高値であった。</p> <p>1年生116名を対象に、教員10名がそれぞれに昨年度より多い11～12名の学生を担当し、ゼミナール形式での授業を展開する。授業は、講義とグループ討議を組み合わせた演習を中心とする内容で、講義は全8回中4回、内容は①全体オリエンテーション、②図書館蔵書・データベース検索とインターネットによる文献検索ガイドダンス、③論証型レポートの書き方、④「身近なメディアと情報倫理」に関するものである。残り4回はグループ討議を中心に、前述①～③の知識やスキルを用いた主体的学習の場とした。ゼミグループの学生を半数ずつ2班に分け、2つのレポートテーマを提示、グループの調べ学習を基盤にレポートのアウトラインを検討・作成し、グループ間でのブラッシュアップの後、最終的には個人で論証型レポートを完成させることを課題とした。</p> <p>自由記載には、「課題が大変」「時間がなかった」「授業課題が多かった」「課題や文献調べで精いっぱい」「課題で忙しかった」など、学習量の多さを訴えた意見が多かった。</p> <p>大学で学ぶための基礎的スキルを修得させるために、毎回の授業に課題学習を取り入れ、さらに、事前・事後の準備(予習)や振り返り(復習)を求めた。学生にとっては、それも働きかけが、教員が考える以上に負担感を感じさせる内容であった。反省する点もある。全体的には「図書館の図書、雑誌の利用」</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業評価アンケートの「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備」をどのくらいしたかの質問に対して、「6回」33人、「4、5回」21人、「2、3回」23人、「1回」12人と、多い少ないの差はあるものの、クラスの87.3%が予習には取り組んでいた。同様に「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習」をどのくらいしたかの質問についても、「6回」44人、「4、5回」18人、「2、3回」13人、「1回」13人と、全体の86.3%の学生が復習に取り組んでいた。予復習に積極的に取り組むことは学習習慣を身につける上で好ましいことである。しかし、予復習を全くやっていない学生(予習0:13名、復習0:14名)も1割以上おり、この点は、今後、検討・改善が必要と考える。</p> <p>予復習をやっていない理由は、「する必要がない」「余裕がない」「他の科目があった」「時間がなかった」との意見。また、「課題をすることで内容が理解できる」「課題が十分なものであった」「振り返りのプリントで十分」「ほとんどが課題として与えられる」「課題以外の学習がわからなかった」「何をすればよいかわからなかった」などの回答から、学生の主体性、積極性に基づく学習への取り組みという点では課題が残った。</p> <p>担当教員への意見としては、特定ゼミ学生の記述が大半を占め、その多くは担当教員への信頼と称賛であった。全体としても、ゼミ担当教員－学生間の人間関係は良好に保たれていた。</p> <p>次年度に向けての課題は、学習量の見直しと予復習を含めた主体的な学習習慣の確立を促すことと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①救急・クリティカルケア看護学は、2年生後期に履修する成人急性期看護方法論の延長線上にあり、特に生命の危機的状況にある患者・家族に対する看護を探究する科目である。また、3年生後期から開始される、各論実習(成人急性期看護学実習-ICU見学実習)に繋がる科目となっている。</p> <p>近年の臨床現場は、救急・クリティカルケア看護を必要としている状況が増加していることから、その状況が想起できるような授業展開を工夫し、講義の終盤では、救急・クリティカルケアの実践が行われるICUについて、集中ケアの認定看護師の講義を2コマ入れた結果、学生の興味関心を高めることができた。</p> <p>②学生の受講動機では、「必修科目である」ことが100%と、全員の動機になっていた。</p> <p>③救急・クリティカル看護学は、応用となる知識として位置づけられるが、学生が理解しやすいよう、看護の概要・場・対象(患者および家族)の特徴や専門職としての役割を説明し、倫理性やチーム医療について解説したのち、生体侵襲反応の解説の後、アセスメント能力の向上や、必要な処置やケアの理解を目指し、病態に合わせた患者・家族に対する看護について解説した。</p> <p>④近年、地震や豪雨等で災害時の看護が重要な状況である。今年、講義の中に災害看護を取り入れ、災害時における看護師の看護活動・法的・倫理的視点などを解説した。</p> <p>⑤救急・クリティカルケア看護における倫理的場面を提示し、グループワークを取り入れ、看護師が求められる倫理性について学びを深めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は76点(SD7.4)であり、最高点87点、最低点60点であった。再試対象は、0名であった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは40名であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては75%、思考判断については74%、意欲関心については90%、全体的に講義に対して、真面目に取り組む姿勢がみられ、目標達成に反映された。</p> <p>受講生の91名全員が国家試験を受験する学生であることを考えると、看護形態機能学や疾病学総論・各論との関連性の強化と救急・クリティカルケア看護を想起できるような視覚によるイメージ化についてさらに検討を進めたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置づけられ、看護師国家試験に関連する必修科目である。定期試験の結果から考え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価では、「知識理解」75%、「思考判断」74%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。「思考判断」を達成させることに繋がっていることから、内容的には妥当であったと考える。今後も、事例の数・状況などを工夫して解説していきたい。</p> <p>救急・クリティカルケア看護領域の主要病態に対するアセスメント・処置・ケアの方法など、最終試験にて思考判断を問っている。平均点の76点から考えて、内容的には妥当であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価では、8割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.7～3.8であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。</p> <p>「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」として、「やりかたがわからなかった。」「わからなかった。」とする意見があった。予習範囲は、シラバスを見ることで概ね理解できると考えるが、講義終了時に、翌週の講義についての説明を入れ、予習しやすい環境を整えていきたいと考える。</p> <p>次年度に向けては、救急・クリティカルケア看護において重要な「思考判断」をさらに強化できるよう、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会をより多くするとともに、復習の時間をとれるように課題の工夫に取り組みたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の「看護実践の応用・展開」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考えるが、個人差が大きく、特に思考判断については課題を残した。</p> <p>また、看護師国家試験に関連する必修科目であることから、受講動機である「資格取得に必要であること」について、来年度に向けて学生の認識を高められるように検討する必要がある。</p> <p>救急・クリティカルケア看護における倫理的場面を提示し、グループワークを取り入れ、看護者が求められる倫理性について学びを深めることができた。次年度も同様に、倫理性についての学びが深められる内容としていきたい。さらに、救急・クリティカルケア看護学は4年次の救急・クリティカルケア看護学演習の基盤になるため、演習に興味関心を高めることができるような授業展開の工夫を図りたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよく読んで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のものであった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教育方法論の歴史的な発展と理論的背景について重視した授業展開とした ②教育方法論の仕上げとして授業案を作成させていたが、本年度はその充実を図ってより多くの時間を割き、プレゼンをさせてみた。 ③その結果として、前半と後半の乖離に疑問を挟む声もあった。 ④記述式の問題によるふりかえりをやめ、小論文形式に変更してふり返りの質を深めることとした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の成績評価の平均値は84.77であり、全学科の平均値84.29を若干上まわっている。もちろん、理想的レベルである80点以上より相当高いポイントとなっており、成果は充分上がったと見ることが出来る。学生の到達度自己評価は3.6～3.8であり、中央値もすべて4.0となっていることからまずまずの数値になっている。但し、どの項目に於いても「少しそうでないと思う」に1名は記入しており、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」では2名という学生がいた。次年度にはもう少し問題提起を高くした授業設計にしたい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ると真内容的妥当性 本科目は教職課程の科目であり、教員免許状取得を目的とする学生にとっては必修の科目となる。その意味ではどの学生も真摯に受講していたし、成績も良好であることから、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からの妥当性 成績評価から、学生はよく学んでおり、内容的に妥当であった。 ③まとめ 以上から内容的妥当性には問題がない。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価は中央値が4.0であり、平均値も3.5～3.8である。特に「説明は理解しやすいものであつた」は3.5といちばん低く、「少しそうでないと思う」にも2名の記入があつた。よりわかりやすい改善を計りたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>「少しそうでないと思う」という評価にどの項目も1～2名の学生がいるので全体の底上げが必要だと感じる。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、シラバスを一部変更した。第6回の「教師の倫理」を削り、「教師の服務Ⅱ」として教師の勤務時間の問題を検証した。また、2016年度には子どもの貧困問題を採りあげてみたが、教職の携わる範囲を超えているため、今回は視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせた。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。 ③記述式の問題によるふりかえりをやめ、小論文形式に変更してふり返りの質を深めることとした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績の平均点は82.33であり、全学科の平均80.58をかなり上まわった。 学生の到達度自己評価は平均値は3.6～4.2であった。 但し、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の項目で「かなりそうだと思う」に記入者がなく、「少しそうでないと思う」に1名の記入があったことは教職概論という科目の性格上、課題があると言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見て真内容的妥当性 本科目は教職課程の科目であり、教員免許状取得を目的とする学生にとっては必修の科目となる。その意味ではどの学生も真摯に受講していたし、成績も良好であることから、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からの妥当性 成績評価から、学生はよく学んでおり、内容的に妥当であった。 ③まとめ 以上から内容的妥当性には問題がない。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の中央値は「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らかであった」が3.5、他はすべて4.0であり、平均値は3.6～4.0でまずまずの評価であった。しかし、「説明は理解しやすいものであった」について「少しそうではない」に2名記入しており、説明の仕方に工夫が必要なかもしれない。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教職の必修科目として、学生の受講態度は真摯であり、よく勉強したと言える。もう少し学生にわかりやすい講義を心がけるべきかもしれない。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学	1	前期	必修	はい	122

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、すべての学生が「必修科目である」と答えていた一方で、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」と答えた学生はそれぞれ、0.9%、3.4%とほんのわずかしかなかった。これは、科目名からどのようなことを学ぶのかを学生がイメージしにくかった結果であろう。授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。</p> <p>昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回授業で説明を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は76.2(±9.0)点であり、再試対象者は1名であった。成績分布別にみると、90点以上が7%、89～80点が28%、79～70点が48%、69～60点が17%、60点未満が1%であった。99%の学生が標準的レベルに達しており、そのうち35%の学生が理想的レベルに達していた。一方で1%の学生は標準的なレベルに達していなかった。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が41%、「わりにそうだと思う」が43%、「まあまあそうだと思う」が15%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.2)。</p> <p>「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が43～59%、「わりにそうだと思う」が29～39%、「まあまあそうだと思う」が11～13%と、ほぼすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.3～4.5)。</p> <p>「思考・判断(DP2)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目4と5)についても、「かなりそうだと思う」が43～47%、「わりにそうだと思う」が34～36%、「まあまあそうだと思う」が19～20%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値4.2～4.3)。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果より大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「知識・理解(DP1)」、「思考・判断(DP2)」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生(99%)が肯定的な回答を行っていた。</p> <p>学生の自由意見としては、「人体の仕組みを学べて楽しかった」や「運動の大切さがわかった」、「多くの知識が身についた」などがあり、健康を維持・増進させることについての興味や関心を高めることのできた学生が数人いた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、平均値が3.8～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 昨年度は、ごく少数ではあるが、「説明がわかりづらかった」や「ゆっくり教えて欲しい」という自由記述があったが、今年度はまったくなかった。今年度は昨年以上に繰り返し説明を行ったり、できるかぎりゆっくりと話をすることを意識した結果かもしれない。 また、学習量の評価についてみると、今年度は1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っていない学生が約19～24%であり、これは昨年度の49%より25%少ない値であった。このことから、今年度は学生の学習意欲を少しは高めることができたと考えられる。 さらに、授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生は約52%であり、昨年度の83%より30%少なくなったことから、学生の興味関心の幅を少しは広げることができたと考えられる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>目標は概ね達成できたと考えられる。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生をさらに増やすために具体策を考えることである。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習 I	1	前期	選択	はい	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターの用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。</p> <p>チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は86.3(±4.7)点であった。成績分布別にみると、90点以上が29%、89～80点が59%、79～70点が9%、69～60点が3%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、約88%の学生は理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が10%、「わりにそうだと思う」が51%、「まあまあそうだと思う」が37%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.7)。</p> <p>「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が1～10%、「わりにそうだと思う」が29～43%、「まあまあそうだと思う」が46～61%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.2～3.6)。</p> <p>「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目9)についても、「かなりそうだと思う」が7%、「わりにそうだと思う」が37%、「まあまあそうだと思う」が53%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.5)。</p> <p>「技能・表現 (DP5)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目7と8)についても、「かなりそうだと思う」が3～10%、「わりにそうだと思う」が37～39%、「まあまあそうだと思う」が49～54%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.4～3.5)。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動(ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動)の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ(バスケットボール、バレーボール、フットサル)の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、平均値が3.3～3.7であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。</p> <p>本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法を調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。</p> <p>また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはランニングや水泳、山登りなどを行っていた者も数人おり、また歩く時間を増やすなど運動量を増やすことを意識したという者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>概ね目標は達成できたと考える。</p> <p>今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康相談活動	3	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、看護専門の選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得には必須科目である。学生の受講動機として「資格取得に必要である」と100%と認識している。</p> <p>「学修準備性」として、学生のシラバス参考は75.0%(看護学科54.6%)、授業の計画についても50%(看護学科36.0%)であった。さらに、学習計画について指導していく。</p> <p>3年前期科目であり、看護および教職の授業の基礎的な学習については習得している。授業構成について、基本的な知識を身につけることだけでなく、既習した学習内容を考慮しながら、討論や演習を取り入れるという大きな構成は昨年度から変わっていない。昨年度の学生の成績等の結果を踏まえて、事例検討の時間を増やした。そのために、事前課題の方法をより詳しく提示し、授業につなげるよう改善した。また、授業内での学生の反応に応じて、事例の内容について再検討はなかった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は80.9(±6.51)であり、再試対象者はいなかった。理想的レベル(80点)に達したものが75%いた。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては66.9%(±3.70)、思考判断に関しては82.3%(±3.66)、関心意欲に関しては85.0%(±1.51)、技能表現に関しては87.4%(±2.50)であった。知識理解に関しては、昨年度(61%)より6%伸びた。しかし、あいまいに記憶している点が見られた。思考判断については、授業中に具体的な事例を含め討論をした。その結果が、授業中のワークシートやレポートに表出されたととらえる。技能表現についても、演習を取り入れながら行ったことで、基本的なところは習得できたのととらえる。</p> <p>「到達度自己評価」に関する項目の平均値は3.9～4.1点であった。看護学科の平均値(3.7～4.2)と比べた場合、「コミュニケーション力や表現力を高める」の項目は、討論や演習を取り入れた結果、0.3ポイント高かった。しかし、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「的確に判断できる」の項目は0.1ポイント低い結果であった。「学習量の評価」については、看護学科平均より高い傾向が見られた。「図書館利用」87.5%、「インターネット利用」は100%であった。学修準備性、学生の授業後の結果が概ね良好であった点から、授業は達成されたと考ええる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップからの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」であり、教職課程の養護教諭一種免許状取得のために必須科目である。2年までの看護の教科および教職における学びが基礎になる。これまでの既習内容については、学生に授業内で確認しながら進めている。目標到達度や成績から、内容的には概ね妥当であると考ええる。</p> <p>② DP、行動目標からのみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断および技術表現の達成度は高いと考えられる。さらに、知識については、昨年度より成績の上昇が見られている。内容的には妥当であったと考ええる。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」に関する項目の平均値は4.1点であった。看護学科の平均値(3.9~4.1)と比べた低い項目はみられなかった。 「学習量の評価」に関して、予習「1回以上」87.5%(看護学科67.3%)、復習についても「1回以上」が100%(看護学科69.6%)であった。 「図書館の図書・雑誌利用」87.5%(看護学科26.7%)「データベース利用」87.5(看護学科18.2%)及び「インターネット」全員(看護学科32.8%)の学生が利用していた。課題学習を中心として、授業外で図書やインターネットを活用し学習に取り組んでいたと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>養護教諭免許取得に関する必修科目の位置づけであり、概ね目標を達成したと考える。知識理解については、昨年度より若干平均点が高くなっているが課題を残している。この点は、教職の実習と関わる「事前及び事後の指導」の授業で確認していきたい。 以上、養護教諭としての態度や技術力を身につけさせるための演習や討論は継続する。知識理解については、他の授業での既習事項を確認しながら、重要な点について提示する。さらに、知識理解を深化させる討論や演習となるよう工夫を図りたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	山本 努

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と家族	3	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>当該科目の基礎知識の理解に重点をおいた。</p>
---	-----------------------------

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験で判断して、「不可」となったものはいなかったため。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は貴学が定めた必修科目である。実習にいくにあたって、必ず、単位取得が必要と聞いている。この科目が必修になった経緯は、外部の非常勤講師の私には判断できない。しかし、「現代社会と家族」の理解は貴学の学生の職業生活(のみならず色々な場面でも)に基礎的な知識であろうと思う。それについては、学生に授業で話しはしてきた。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

学生の私語には厳しく対処した。が、出席は毎回はとらなかった。毎回取るというのもいいかもしれない。そのように希望する学生もいるようです。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	東野 充成

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と統計	1	前期	選択	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>統計の基本的な考え方や、χ^2乗検定、相関係数など、基本的な統計の計算ができるという点に重きを置いた。レポート作成に二週間を用い、間の一週間は学生からの質問の時間とすることで、受講者全員が、基本的な統計の計算ができるよう指導した。そのため、ほとんどの学生が、相関係数などの計算やエクセルを用いた計算ができるようになった。この点は、レポートの作成に頑張ったという学生の声にも反映されている。今年度は、昨年度の改善計画を踏まえ、基本的な考え方と計算方法の習熟に重きを置いたので、この点は達成できたと考える。一方、後半の多変量解析については、考え方や概念が複雑であり、むづかしかったという意見が多かったが、前半と同じくレポート作成に時間をかけたので、また、グループによる調査とレポート作成という形にしたので、ほとんどの学生が一定水準以上のレポートを提出することができた。ただし、多変量解析を扱うかどうかも含めて、むづかしい部分については、もう一段の工夫の余地がある。授業内容の精選が必要と感じた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の学生が60点以上で合格したので、目標自体は達成できたと考える。また、平均点が81.9点、秀が15名、優が25名おり、過半の学生が十分に理解できていたと考える。特に、個々人に相関係数の計算を課した前半のレポートに関しては、1回目の提出でやり直しになった学生がほとんどおらず、エクセルを用いた相関係数の計算をほとんどの学生ができるようになった。この点は、「レポート作成を頑張った」や学生の学習量の評価にもあらわれている。一方、後半の多変量解析に関するレポート作成は、内容的にもむづかしい領域なので、個々人にレポートは課さず、グループで調査の実習とレポート作成を行った。グループとして提出されたそれぞれのレポート自体は、どのグループもある程度完成されていたが、個々人の理解度については逆に推し量ることが難しくなった。そのため、「自分には難しかった」という声など、目標を達成できていない学生がいたのかもしれない。また、多変量解析の原理まで十分に理解できたかどうかは判断できない。そのため、「やや達成された」とした。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>看護を学ぶ学生、看護師にとっても、統計に関する基礎的な知識や理解は、必須の素養である。そのため、教養科目として本科目自体は非常に重要なものと考えられる。ただし、看護教育にとって統計の内容をどこまで掘り下げるとかという点については、再考の余地があると考えた。難しかったという意見や後半ついていけないといった意見、興味が持てなかったという意見にみられるように、むしろ、統計の基礎的な考え方や概念、基本的な計算などについてもっと深く掘り下げたほうがよかったと感じている。そのほうが、看護教育として汎用性のある力を身につけられたと考える。その上で、実際に看護の現場で用いられている統計などを紹介していきたい。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>多変量解析の考え方について難しかったという意見が多かったので、この分野については少し縮小し、統計の基礎的な考え方や概念、計算についての授業の分量を増やしたい。また、今年度初めてグループによる調査と分析を導入したが、「わからないところは友達に教えてもらいながら進められた」といった肯定的な評価が多かったので、グループワークに使える時間をもう少し確保したい。ただし、グループ間またグループ内でも、能力や意欲にばらつきがあるので、その点を把握できるようにしたい。そのため、授業内容を精選することが必要である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>今年度初めて、グループワークによる社会調査の実習を導入した。自分たちで手足を動かして社会調査の基礎を学ぶという点では、教育方法として一定の成果を上げられたと考えている。ただし、統計の基礎的な概念や計算を修得して上でのグループワークとなるので、いかにせん絶対的に時間が足りなかった。内容を精選して、調査の実習に避ける時間をもう少し増やせばよかったと考えている。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	2	前期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生の前期科目である。学生の受講動機は、2015年より2017年まで、例年変わらず「必修科目である」ことが、ほとんどの学生の動機であり、「関心のある内容である」は、例年5%程度となっている。</p> <p>これらの事を踏まえ、第1回の授業では、シラバスによる説明で、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は75点であり、再試対象者は4名であった。標準的レベルに達した学生が96.0%であった。内、理想的レベルに達した者は44.4%と、4割の学生が達成した。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては72.5%(2016年度70.0%)、思考判断に関しては77.7%(2016年度86.0%)、意欲・関心に関しては66.0%(2016年度93.7%)、態度に関しては94.0%(2016年度87.8%)であった。</p> <p>昨年度の状況をふまえ、今年度は学生に理解しにくい内容及び学習方法の検討を行い、知識理解に獲得割合は上昇したが、思考判断に関しては昨年度より減少している。学生が主体的に思考し判断できる課題の提案等の検討が必要と考える。</p> <p>学生による授業評価委においては、到達度自己評価では、例年受講動機における関心の低さに比べ、全体的に関心を示している状況が伺えるが、本年も同様の傾向がみられた。学生の親しみが少ない保健師活動が具体的にイメージできる導入科目としての役割を果たしていると考えられる。</p> <p>授業の質評価の項目において、「説明は理解しやすいものであったか」については、(まったくそうでないと思う・少しそうでないと思う)と理解しづらさを感じていた学生が2015年度18.2%、2016年度9.5%、2017年度1.0%と改善している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の質評価において、すべての項目が3.6から4.1(2016年度3.2から3.6)であった。理解しやすい授業を構成することと、学生の主体的参加への試みが少しずつ改善していることが伺える。</p> <p>教育課程における本科目が果たす位置づけとしての内容的妥当性は、求められる状況を近づいていると考えられる。</p> <p>受講動機から授業後に学生の変化が見られることが学生自身が実感できる授業の展開を今後も目指したい。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、保健師課程のみが必要とする科目と捉えがちであるが、教育課程においては「看護の基本」に位置づけられており、これからの日本の状況を考えると、地域での生活者への看護者の視点は、基盤となる科目である。 本年度は、特に科目導入時及び毎時の授業時に学習する意味について説明を加え、授業を展開したことで、科目の評価として、96.0%が標準的レベルに達し、かつ4割の学生が理想的レベルに達した。加えて「理解しづらさ」を感じた学生が1%と減少したことは、学生が達成すべき行動目標が概ね達成できたと考えられる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>教育課程においては「看護の基本」に位置づけられている本科目の役割は、果たすために、受講学生全員の達成状況を上げること、そのためには学生自身が主体的学習者として、関心をもち、上位学年の学習意欲につながることを目指して授業改善を図っていきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>「公衆衛生看護学実習」に必要な看護技術を修得する演習科目である。受講動機をみると「必修科目である」平均値61.6%(前年度76.5%)、「資格取得に必要である」平均値(83.3%) (前年度47.1%)と、上位2項目の割合が逆転した。資格取得に向かって科目を受講しようとする姿勢が表れていると考えられる。「関心のある内容である」では、前年度0%から16.7%へと改善した。実習で実施する公衆衛生看護技術の具体的な内容やテーマの選択にあたっては、実習施設の指導保健師との調整を行い、現場に即した演習課題を準備するよう工夫したことや、初回時の学生へのオリエンテーションの効果とも推測される。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達した、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)目標は達成された。</p> <p>目標別に見ると、思考判断の達成は73.7%、関心意欲では94.4%、技能表現では83.3%、態度では100%であった。思考判断では、家庭訪問や健康教育の事例に対し、健康課題解決のために、科学的根拠に基づいて公衆衛生看護技術をどのように適用するかを判断する力を問うものである。また、技能表現では、対象者とコミュニケーションをとり関係を形成しながら看護技術を提供できる力を備えることである。学生の達成度評価からは、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」平均値4.3(前年度3.8)と最も高く、また改善ポイントも高かった。次いで「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」平均値4.2(前年度3.8)、「コミュニケーション力や表現力を身につけることができた」平均値4.2(前年度3.8)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.2(前年度3.7)、と改善した。</p> <p>今年度は、演習内容について、どのような力をつけることができたかについての振り返りの時間を確保したことが改善につながったのではないかと推察される。図書館の利用状況に関して、全員が図書、雑誌、HP、学術データベースを利用していた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。2年生後期の「公衆衛生看護技術論」修得した知識をベースに、事例について家庭訪問及び健康教育を展開する演習科目である。開講時期が4年生前期であり、看護師課程の各領域看護学実習を終了した時期である。そのため、個人・家族から、集団・地域と対象理解を広げて看護を展開するには適切な時期であり、また内容的にも妥当である。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 受講動機では、保健師課程の必修科目であること以外で、資格取得に必要であることや、関心のある科目に回答する者が前年度より増加した。また、DPの達成状況は上記に述べた通り、全員が達成していた。以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価では「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が与えられていた」平均値4.3で最も高く、他項目も4.0以上となり前年度より改善した。 特に前年度「説明は理解しやすいものだった」平均値3.2と最も低かったため、今年度は、教員とのディスカッションを基に、補足説明などの時間を設けたことから、4.1へと0.3ポイント改善した。 学生の自由記載では、「受けてよかった」「興味のあるものを調べた」と記述されていた。学生は実習に向けて自己の課題を意識して何が必要かを考えながら授業を履修していた様子が伺えた。図書館の利用状況に関して、全員が図書、雑誌、HP、学術データベースを利用しており、前年度よりも改善していた。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>学生は、全てのDPを達成した。授業外の課題学習でも図書館を有効に活用し、科学的根拠に基づいて看護を提供しようと計画し、家庭訪問、健康教育の技術の習得に向けて熱心であった。事前に学生が準備してきた課題をもとに、担当教員とのディスカッション及び教員の補足説明の時間を確保したことで、授業の質評価をはじめ全体的に評価が改善したのではないだろうか。今後もそうした工夫を継続する。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2	前期	選択	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>講義を受ける学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>多人数の講義だったがこれに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>アンケートに記入された受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>アンケートにあった講義中の「汚い言葉の使用を控えてほしい」についてはもっともである。授業の進め方と改善課題については大きな反省としたい。私語学生に対する言葉がきつすぎたと反省している。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかという点と一方向に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに答える学生がいないことにも起因しているが、それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。上品な日武力的な言葉使いは今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>講義の道は経験は多いけれど、今年度の達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中ではなからうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機について、98.8%が「必修科目である」をあげている。本科目は看護学科の必修科目であり、学生の選択の余地なく受けざるを得ない。そのためか、その他の動機は極端に少なく、「関心のある内容である」のは1.3%であった。これまで慣れ親しんだ病院内の看護でない在宅の看護であるため、関心を示す材料が必要であることが伺えた。</p> <p>在宅看護学では、以下の目標をあげている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護をとり巻く社会情勢から在宅看護が必要とされる背景を知り、在宅看護にかかわる施策・制度を説明できる。 2. 継続看護について説明できる。 3. 在宅看護に活用できる家族理論の概要を述べることができる。 4. 在宅療養に対して安全・安楽な看護および自立を支援する看護の役割について説明できる。 5. 看護専門職として、療養者の居宅に1人で訪問する責任を考え、自分の言葉で述べるができる。 6. 地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 7. 保健・医療・福祉サービスを整理し、療養者と家族を支えるために多職種・多機関と連携する必要性を理解する。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績は、平均点72.0点(昨年69点)であり、再試験対象は10名であった。成績の内訳は、秀 3名(昨年2名)、優 14名(昨年8名)、良32名(昨年 47名)、可42名(昨年48名)、不可 0名(昨年0名)であった。</p> <p>昨年に比べ、平均点、「秀」と「優」の学生数が多かったが、「良」の学生が減っている。成績の2極化の傾向があった。テストでは記憶だけでは回答できないように、事例を使って問う問題があるが、その部分の回答に差が見られた。授業内で実施した方法であったが、事例が変わると回答できない学生が多く、理解させることのむずかしさを感じた。○×や公式に当てはめることに慣れているため、問い方を変えただけでとまどっているのがわかる。この科目だけでは難しいが、○×を選択する思考過程を、臨機応変に対応できる思考過程に変換させる工夫をしていきたい。</p> <p>また、授業評価の到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が3.2、「学びを深めたい意欲を持つことができた」が3.0と、学科平均よりも低い数値であった。これらの数値が、最終的な成績に反映しているとも考えられるため、意欲を高める工夫をしていきたい。</p> <p>しかし、図書館の図書や雑誌を利用した学生が6割以上、学術データベースを使った学生が半分以上おり、専門書や最新のデータをみて学習スタイルで臨んでくれたのは、さすがに3年生だと感心した。どの授業内容がこれらの評価につながったのか、検証していきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目はDP1:知識・理解、DP2:思考・判断、DP3:意欲・関心を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。しかし、学生の特徴として、科目単元ごとの知識で完結してしまい、既習の知識を使って考えなければならないことに気付かない、もしくは気づいてもどこにどのように使ったらいいのかわからないことがある。考え方を説明する前に、考える必要性を認識させる仕掛けをすることが必要と感じた。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>在宅看護の対象は、あらゆるライフステージの人で、かつ、あらゆる疾患を持つ人である。既習の看護学の知識を使うことが必要であるため、予習・復習を実施してほしいと考えている。「授業に参加するために30分以上の準備をしたか」で、0回と1回が半数を占めていた。復習についても同様であった。自主学習が難しい部分は課題として提示する方法もあるが、一方で「最後まで課題を出しすぎる」といった意見もある。自発的に学習できる雰囲気はどう作っていくか、今後の課題である。講義資料は、教科書を基盤にオリジナルで作成した。授業の記録について「配布資料に記録した」が90%であった。「記録をしなかった」が5%あり、自由記載では「レジメ使い方がわかりづらい」というものがあった。また「スライドで出しているものおは資料として配ってほしい」との自由記載があった。スライドの内容で必要部分はレジメに入れており、レジメに入れていないのは復習や教科書の図などである。これらは、教育的配慮に基づくものである。全て与えられることを当たり前で思っているのであれば、学生の学修姿勢を正していきたい。</p> <p>自由記載の内容を見ると、在宅看護学の自由記載に在宅看護学演習の中味ではないかと思えるものが多数を占めていた。2コマ続きで2つの科目を同時進行したため混同している。演習で課題を多くした分、在宅看護学では課題を最小限にしたり、在宅看護学の授業が早く終わったときは次の演習を早く始め、逆に、在宅看護学の授業が遅びた時は次の演習開始を遅らせて、昼休みの時間を確保した。学生の反応を見て進行を早めたり、ゆっくりしたりしたつもりだが、伝わっていないようであるため説明は丁寧に行いたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「看護実践の統合」に位置する。つまり、各看護学の知識を使って「統合」する科目であるため、在宅看護学の授業だけでわかろうとすると無理がある。また、すべてに答えがあるわけではなく、複数の答えが存在することもある。学生は、明確な回答がないと不安に思っていることが伺えた。諸状況によって様々な対応が考えられる場合は、「答えはない」とした上で、コメントするようにしていきたい。</p> <p>最初の授業でシラバスを配布し、単元が変わる時には確認を促したが、参考にしたと答えた学生は半数以下であった。シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。</p> <p>「説明が早い」、「説明がわかりにくい」、「説明が変わる」という指摘が複数あった。同じことを言葉を変えて説明したら、違ったことに感じているようなので、言葉を大切に授業をしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機について、100%が「必修科目である」をあげている。その他の動機は極端に少なく、「関心のある内容である」のは1.2%であった。本科目は看護学科の必修科目であり、学生の選択の余地なく受けざるを得ない。関心ある学生が少ない状況での授業開始であることを念頭に授業の導入をしていくことで、仕方なく受けるにしても、興味をもって臨んでもらうようにしたい。</p> <p>在宅看護学演習の目的は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族(事例)の安全・安楽を考慮し、自立を支援する看護計画が作成できる。 2. 居宅の環境と条件に合わせた臨機応変の看護技術を考えることができる。 3. 地域ケアシステムを考慮し在宅療養者と家族(事例)を支えるケアプランを検討できる。 4. 演習事例から、地域包括ケアシステムの構築に看護が果たす役割を考えることができる。 5. ケアプランを実行するために、多職種多機関との連携の方法を考え、協働する態度を身につける。 6. 在宅療養者の自宅に訪問する看護師が信頼関係を樹立するために必要なマナーとコミュニケーション技術について考え、実践の準備ができる。 <p>在宅看護学・在宅看護学演習は同時進行であるため、3つのねらいを設定した。在宅看護学と演習の時間を2コマ続きで、ねらい毎に講義 → 関連した演習で展開</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	<p>評価は、レポート・ケアプラン・看護過程等の提出物が50%、期末テスト50%で実施した。最終的な成績は、平均点71.7点(昨年71.8点)であり、とほぼ同じであった。成績の内訳は、秀 1名(昨年1人)、優 11名(昨年25名)、良 39名(昨年42名)、可 39名(昨年31名)、不可1名(昨年4名)であった。昨年に比べ、優が半分以下となっている。今年は、レポートの点が低いことが特徴であった。文献を使い、自分の考えが述べられているレポートが少なく、文献をつなげてそれなりの形を整えたものが目立った。図書館を利用したが7割あり、学術データベースを利用した学生も半数以上あったことは評価に値するが、自分の意見をもつことを意識して指導していきたい。</p>					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目はDP2:思考・判断、DP3:意欲・関心、DP4:態度、DP5:技能・表現を目標にしている。CPでは「看護実践の統合」に位置する。グループワークを取り入れながら、各自がケアプラン・看護過程が展開できるように、課題の提出は個人個人できるようにした。また、ルーブリック評価表でチェックし、必要箇所はコメントを入れて返却した。達成度の自己評価はすべての項目において学科平均より低く、学生の実感ができない講義になってしまったことが反省点である。</p> <p>地域ケアシステムの演習グループワークは、課題はグループごとの提出だった。良くまとめられているグループの提出物にコメントをいれて、次の講義で全体に配布して説明した。しかし、法律・制度が苦手なうえ、図式化することが極端に苦手な学生が多く、個人個人の力を身につけることができなかったようである。一人ひとりに力をつけるようにグループワークと個人ワークの工夫をしていきたい。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>演習の初め、介護をめぐる社会問題を考えてもらう手法としてディベートを取り入れた。自由記載で「ディベートを利用する意味がわからなかった」と1名記載があったものの、この後、在宅看護学で在宅医療、家族介護、福祉制度などを講義したが、ディベートで調べた内容と一致していたところは興味深く聞いてくれた。</p> <p>「解説が足りない」というコメントが複数あったが、既習の知識を使ったものであり、そこから説明しているとディスカッションの時間確保が難しい。そのため、講義中は教員と助教でラウンドしながら個々の質問に応じる体制をとっていた。そこでは、質問がなかなか出なかった。教員の担当グループも明示していたが、質問の機会を逃す学生もいたのかもしれない。質問がない分、教員で、学生の状況と迷っていきそうなところを講義中に共有し、担当グループに説明する方法をとったが、学生の自由記載で「教員が後ろで話している光景が良い気持ちがいなかった」とあった。教員の動向が気になることがわかったので、場を変える等の配慮をしたい。講義前半はレポート、後半でケアプラン・看護過程の提出を要求した。これは3年前期は看護学各論ごとに看護過程を展開するため、同時進行している他の演習科目の進行や課題を配慮したものだが、自由記載では課題の量と時期についての意見もあった。実習に向うこの学期は、授業数が少ない分、科目の質が高く要求され、これまでに比べて課題の量は多くなる。教員同士で同時進行の課題を考慮しているので、後期の実習に向ってこの関門をクリアしてほしい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>今回、例年がないことが2つあった。1つは、教科書をロッカーにおいて最後まで授業に持って来ない学生が複数いた。もう1つは、演習でグループワークをするのに、最後まで指示がないとグループごとの席に着席しなかった。時間についての要望が多かったが、自分たちの時間の使い方を見直してほしい。</p> <p>最終講義では実技を予定していたが、看護過程の達成度が思わしくなかったため、口頭試問に変更した。このことについて、学生の納得を得ることができないまま進化したため、色々な憶測が学生のSNS上で語られ教員や科目への不信感につながったようである。学生に説明し、納得して授業を受けてもらえるようにコミュニケーションを図りたい。</p> <p>主体的な受講動機が低い科目であることを自覚し、科目のねらいを具体的に示していきたい。授業外での課題については、今後他の科目の情報を得ながら考慮するが、なくすことは難しいため、学生の理解を得たい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論 I	2	前期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。</p> <p>疾病学各論 I は、内科疾患(循環器、血液、腎臓、消化管、肝胆膵、代謝、神経、感染免疫)と外科・麻酔科・婦人科疾患が範囲です。内科疾患は私が担当しましたが、外科・麻酔科・婦人科の講義は医療現場の専門医に講師を依頼しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答も一割前後あり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>中間試験と期末試験の総合判定で、平均値は81.9点(最高96.4点、最低54.4点)でした。秀:18名、優:47名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の64%でした。60点未満の再試対象者は2名で、再試では2名ともに60点以上でした。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、最終的には全員が標準レベルに到達したと判断しました。</p> <p>内科の中間試験で平均点が82.1点、期末試験で76.8点でした。外科・麻酔科・婦人科の期末試験で平均点が81.6点でした。以前のように分野による大きな点数差は認めませんでした。外科・麻酔科・婦人科の試験を私が整理したのが奏功したように思います。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。</p> <p>試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあさうだと思ふ」以上の評価を得ています。ただ、学生参加に関しては評価が低い傾向にあります。自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思ひます。</p> <p>授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約半数でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは四分の一程度でした。</p> <p>次年度は学生さんが授業にもっと参加したり、自分から勉強したり調べたくなるような課題を出すなど努力したいと思ひます。</p> <p>前年度に配布レジメの一部が見にくいとの意見がありましたので改善しました。外科・麻酔科・婦人科の講義でも配布レジメが欲しいとの意見がありましたので、外部講師の先生方に依頼しました。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思ひます。</p> <p>4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。</p> <p>なお、本科目では外科・麻酔科・婦人科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、講義形式に統一性がない面がありました。次年度は改善できるように努力したいと思ひます。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>疾病学各論は、主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療法、予後などを解説するものです。疾病の知識は、看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。とにかく範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介して、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。</p> <p>疾病学各論Ⅱは、内科疾患(呼吸器、救急医療、内分泌)、小児科疾患、精神科疾患が範囲です。先端医療にも対応できるように、小児科と精神科は専門家に講師を依頼しました。</p> <p>授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答もあり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験の平均値は77.2点(最高95.1点、最低46.3点)でした。秀:5名、優:32名であり、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが全体の36%でした。60点未満は2名でしたが、再試験を受験しませんでしたので再履修となります。学生間で点数差のばらつきが顕著でしたが、ほとんどの学生が標準レベルには到達したと判断しました。再履修となる学生さんは来年度に改めてしっかり強して下さい。</p> <p>内科の平均点が84.3点で、小児科の平均点が74.9点、精神科の平均点が64.8点でした。昨年度までに比較すると、分野により得点差が縮小しました。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。看護の実践を学ぶうえで基礎となる位置にあります。ここの内容を理解していないと、今後の看護科目の勉強、看護師国家試験、将来の看護師としての業務の全てにおいて支障を来します。</p> <p>試験結果、学生さんの到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの観点において「まあさうだと思ふ」以上の評価を得ています。また、自由記述でも授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思ひます。</p> <p>授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約半数でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは四分の一程度でした。</p> <p>次年度は「疾病学各論Ⅰ」と同様に、学生さんが授業にもっと参加したり、自分から勉強したり調べたいような課題を出すなど努力したいと思ひます。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。学生さんによる成績差はありますが、大多数のかたは標準的レベルに到達することができたと判断しました。今後も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思ひます。</p> <p>4年生の疾病学特論では臨床現場で注意することを改めて解説します。</p> <p>なお、本科目では内科、小児科、精神科の3名の教員が講義を担当しているため、改善はしているものの試験の難易度などに差が出てしまいました。次年度は全体の統一性を持たせるようにさらに努力したいと思ひます。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学演習	3	前期	必修	はい	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると、100%が「必須科目である」ため、関心のある内容と考えている学生は、1.2%であった。これらは毎年の傾向であるため、他人任せでなくより積極的に参加出来る少人数のグループを組むことを今年も実施した。本科目は、3年後期から始まる臨地実習に向けて看護実践のための知識・技術・態度の準備状況を整えるための科目である。これまでの知識を統合して患児家族の状態を判断し、看護計画をたてられるように、臨床状況を想定したペーパーペーシエントを使って、グループワークを中心に学習を進めていくようにした。今年度も病棟で学生たちが受け持つ可能性が高く国家試験にもよく出題されるような疾患を小児の各発達段階毎に選び、事例展開を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は、80点(秀:0名、優:50名、良:34名、可:5名)であった。また技術テストは全員合格している。目標別にみると、思考判断75.1%、関心意欲73.3%、態度83.8%、技能表現94.3%と概ね達成状況にあると考えられる。技術テストに関しては、今年度は技術演習からテストまでの期間が短かったため、テスト項目を少なくしたことで、練習しやすく再試者もでなかったと考えられる。また思考判断は7割台となっており、さらなる目標達成に向けて授業内容の工夫が必要と考えられる。技術演習については、今年度も昨年に引き続き4年生の看護総合演習で小児看護学を選択した学生7人にティーチングアシスタントを依頼した。3年生は、4年生が入ることで、教員のみより積極的に質問をしたり、技術をみてもらっており、演習中に時間をもてあまし、私語をする学生が少なくなっている。学生の自己評価では、各項目で98%以上の学生が肯定的な評価をしている。また、授業評価では、各項目95%で肯定的な評価をしているが、説明が理解しやすいかというところで、少し分りにくいと感じている学生が少数いるため、授業の中でできるだけ学生が質問しやすい雰囲気や環境を整えていくことが引き続き必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。必須科目であり、関心を持って選択したのは1名であるが、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。
	②DP,行動目標からみた内容的妥当性 思考判断、意欲関心、態度、技能表現ともに70%～90%以上であり、ある程度の目標は達成されており、妥当であったと考える。ただし、DPの中でも思考判断が70%と低いいため、改善に向けての課題を残している。
	③まとめ 以上から、内容的妥当性には、問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>グループワークを通して目標を達成していく方法が主である。この方法は他人の考え方を知って視点を広げ学ぶというメリットもあるが、一方でグループメンバーに任せっぱなしになってしまい、自分ではよくわかっていなくても、グループとしては看護過程が出来上がっているという状況もみられるため、個人の理解度を明確に把握できない欠点もある。これについては、グループごとに授業終了後、ファイルを提出し、進行具合をチェックしたり、コメントを返すことでこちらの意図を各グループに伝えているが、このファイルのやり取り時あるいは、授業中に直接の確認を更に細かくやっていきたい。また、学生からの意見で、3人が少なすぎるという意見もあり次年度検討をしていきたい。さらに3人の組み合わせが偏っているという意見もあったが、この授業前までの各学生の出席状況や成績を踏まえてグループ分けをしているが、個々の相性ややる気などを考慮するには限界があり、グループワークを進めながら個々に対応していきたい。今年度は、教員が1名足りない状況で授業を進めたため、事例展開の方法を去年までの方法と変えて、できるだけ時間内にグループワークといくつかのグループに発表してもらいながら、1つ1つ理解を進めていけるようにした。意見交換の際には、活発な発言が見られたが、ここで意見を言えなかった学生は、わからないまま先に進んでしまった可能性がある。来年度は教員の数が元に戻る予定であり、更にきめ細かな指導を考えていきたい。</p> <p>また、予習・復習の時間をとっていない学生が2割いるというのは、グループワークの時間を授業枠内に何回か入れているため、その時間内に進行の早いグループは、自分たちの予定したところまで進んでいると判断し、あまり準備をしなくてもその時間内に終わることができていることも考えられる。また、他の教科の課題と重なると学習が忙しくなり、事前学習も、手短かに教科書の一部をみただけで済ませてしまいじっくりグループメンバーで検討することが少なくなっていることも考えられる。次回からグループごとの時間配分、事前学習の内容や各回の到達目標の提示等についても検討していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>・本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開に当たる教科で、看護を学ぶための基礎、看護実践の基本や小児の看護過程を展開するための基盤となる小児看護学概論、小児看護方法論を踏まえ、健康障害を持った小児看護の展開を学ぶための科目である。目標は、全般的に一定の達成度を得たが、思考・判断領域に関しては引き続き課題を残している。毎年試行錯誤ではあるが、学生のつまずきを早期に見つけ、個別またはグループでの指導方法を取り混ぜながら自分で考えていくための方法を習得できるよう教員間での情報共有も積極的に行いたい。</p> <p>・技術テストに関しては、実施内容・方法の再検討や、練習時間の確保等、引き続き改善を図りたい。</p> <p>・グループワークを進める際に、理解が困難な内容については、引き続きより分かりやすい言葉や、具体例などを用い学生の理解を促していきたい。</p> <p>・グループワークの時間配分や進め方についても、学生と教員間で積極的な質問・意見交換が出来るような工夫など取り入れたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	前期	必修		103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、看護の必須科目であり受講動機も100%必須科目と解答をしている。また、この科目への関心は5.2%と例年に比べ高くなっているが割合としては相変わらず低いため、まずは関心を持てるような工夫が必要と思われる。学生の準備性としては、小さい子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいいため子どもの成長発達なども、具体的な数字や例を挙げ、また出来るだけ視聴覚教材を使って説明した内容と実際が関連づけられるような工夫を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>最終的な成績は、平均値は82.8点であり、再試対象者は1名であった。(再試験後合格)。60点台(可)が13名で、80点以上は78名(秀:47名、優:31名)と75.7%の学生が理想的レベルに到達していた。概論では、知識理解に関する修得割合が高く、覚える部分が多くある。知識理解に関して78.9%と標準レベルには達しているが、理想レベルにはあと少しである。これは勉強不足もあると思われるが、単に覚えることが多いだけでなく実際の映像や子ども達の状況と結びつけながら、繰り返し確認していくというこちら側の働きかけも必要であると考え。思考判断については、88%であった。これは、試験の内容がレポートの内容と重なっていたため高得点になったと考える。また、受講動機では、関心のあるものが1名であったが、到達度自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が4.0と受講後関心を持つことができ意欲関心については目標は達成出来たと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方を学ぶための教科となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は1名と少なかったが、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解は78.9%、思考判断は88%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、全体的に3.9から4.0と評価されていた。今年度は、成績に差が出ていて、可の学生と秀・優の学生の数が増えている。可の学生が更に理解を深めることのできるようわかりやすい授業の工夫や知識の定着に向けてのくふうが必要と思われる。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。これらの知識・考え方を概論に続く小児看護方法論へとつないでいくことで、知識理解、思考判断を強化していきたい。 授業では、引き続き他の学生との話し合いの時間を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を増やしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2	前期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方だけでなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。</p> <p>知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。</p> <p>技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。</p> <p>受講生の受講動機の6割が、「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「単位数確保」「関心のある内容」が主要な動機である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>平均点は88.7点で、標準偏差は20.8点であった。受講者の半数以上(36名)が90点以上で、残りの10名も75点以上であることから、教育目標は達成されたといえる。</p> <p>単なるPowerpointやExcelの使い方だけでなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の4番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。</p> <p>アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたので、今後もぜひ継続していきたい。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>ほかの講義の演習に時間がとられるようで、学生の自主的な予復習を期待しつつも、現実的には難しい現状があると理解した。 学生の負担を他講義と共有できるのが望ましいが、困難な場合は締め切りを柔軟にするなどして、ほかの講義や演習負担との重複を緩和するようにしたい。</p> <p>講義資料については、Web上で配布しているが、重要なものは印刷して配布するようにしたい。 また、説明内容や資料について、よりわかりやすく修正いく必要があると感じている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れている。</p> <p>* 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーに、大きなばらつきがある。 タイピングスピードが遅い学生は、操作が遅れがちになるため、説明においていけない。 とくにスキルやリテラシーのひくい学生に対して、上記で述べた学習の動機付けを改善することが課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	浅羽 修丈

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報リテラシー	1	前期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年度では、開講時の学生の学修準備性について調査していなかったため、今年度は、第1回目の授業で挙手による調査を行った。その結果、「パソコンが苦手」である受講生が多かった。また、昨年度の授業評価結果から、多くの学生は「単位数を確保する」または「関心のある内容である」ことを目的として受講していることが分かってる。そこで、今年度は、「パソコンは苦手であるが関心があり、単位は取得できる科目である」という意識の受講生をイメージして、授業準備を行った。</p> <p>具体的には、「パソコンは苦手であるが関心がある」という観点からは、パソコンの操作をひとつひとつ丁寧に解説していくことを心掛けるだけでなく、学んでいる技術が具体的にどのような場面で役立つのかについて、随時開設した。これは、大学生生活や将来の社会生活との関連性を刺激することにより、関心の度合いをより高めることが目的である。</p> <p>また、「単位は取得できる科目である」という観点からは、課題を一定のレベルでクリアすることが単位の取得につながることを説明し、単に出席するだけでは単位の取得は見込めないことを意識づけた。課題は、ほぼ毎回の授業で設定することで、やるべきことを意識させるような準備を心掛けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均は、78.1点と高く、多くの受講生が良いレベルまで知識理解を達成したと捉えることができる。受講生の到達度自己評価を見ても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.6、「自分なりの目標を達成した」が4.3であり、非常に高いレベルで目標に到達したと感じている。</p> <p>しかし、自発的な学習をしていない学習者が、36/53名と多いことが気になる。知識理解は、自発的に学習を繰り返して、少しずつ定着させることが理想であると勤めるためである。自発的な学習を促すことは難しいが、自発的に学習しなかった理由が「何をしたらよいか分からない」「することがなかった」などの意見が多いので、来年度は、授業時間外でどのような学習に取り組みがよいかといったアドバイスの説明を試みたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、情報系の科目であり、コンピュータを操作しながら学ぶことに特徴がある。看護学科の受講生が、将来、看護師などの医療・福祉関係に就いたときにも、コンピュータを操作する機会が多いことが想定され、カリキュラム上も重要な位置づけにある科目であると考えている。第1回目の授業で調査した結果、「パソコンが苦手」な受講生が多いため、コンピュータ操作の基礎についての学習は、内容的妥当性が高いと判断する。</p> <p>また、授業評価の「2. 到達度自己評価」の(4)～(7)「自分が学ぼうとしている専門分野・・・」という項目においても、4.0前後に評価されているので、これから学んでいく分野と本授業の内容とが、ある程度結びついていることが分かる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業評価の「3. 授業の質評価」の全ての項目で、平均値が4.5を超えており、全体的に高い評価を頂いた。授業の進め方については、概ね良い方向で進められていると感じている。</p> <p>授業評価の「4. 学習量の評価」に関しては、物足りなさを感じる。予習・復習をしていない受講生が多く、何らかの形で予習・復習を促す刺激を与えることができればと考えている。また、授業の記録をしなかった受講生が最も多く、記録の仕方についても言及する必要があるように感じた。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>目標の到達度においても、授業の質評価においても、概ね良い評価を得ることができた。しかし、課題は幾つかある。その主な課題を以下に記す。</p> <ul style="list-style-type: none">・自発的な学習を促すために、どのような学習に取り組みばよいかといったアドバイスの説明をする。・受講生の学習量を増やすために、予習・復習のための明確な指示を与える。・授業の記録の仕方について説明する。 <p>来年度は、上述の内容を考慮に入れて授業改善に努めたいと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習 I	1	前期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、大学生としてのICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろPCを用いて何を表現できるかが4年間の大学生活を送っていく上で、あるいは社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やデータ処理スキル、インターネットの活用手法、あるいはプレゼンスキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。</p> <p>受講動機では、1年生前期の必修科目ということもあり、「必修科目である」が98.1%と突出した数値となっている。その他の項目の数値が極めて低いことから、カリキュラム全体における本科目の位置づけや狙いについてはほとんど理解せず、単に必修であるので受講したということが伺える。必修科目という特性上、やむを得ない部分もあるが、その改善に向けては第1回目授業においても科目の位置づけなどを十分説明している。しかしながら、通知状では改善がはかられていない点は残念である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は74.5点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「秀・優」の学生が37.1%、「良」も加えると72.4%に上っており、授業目標としているレベルを達成できたといえる。ただし、「可」の27.6%の中の多くは、最低条件としての単位修得に至っており、基礎科目という位置づけからも、今後の検討課題である。学生の到達度自己評価でみると、全体的傾向として(2)の項目において、「かなりそうだと思う」が7割程度となっており、学生自身も授業目的であるICT活用術の修得を実感できていると言えるのではないだろうか。また、昨年度に比べて、(4)～(7)の項目の数値が全体的に上がっている。これは、授業ネタや課題において、なるべく医療分野に関連する内容を含むよう意識して行った結果であると考えられる。しかし、更なる改善の余地はあると思われる。</p> <p>その他、(9)、(10)の項目については、看護学科ということもあり卒業後の職業目的が明確に絞られていることが反映されているのではないかと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の大学生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される必修科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」および「職業選択の参考」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、昨年度も同様の結果であったため、SNSによる新たなコミュニケーション手法やICT活用による表現技法、医療分野に関連する課題等を授業に組み込んでみたが、あまり改善されていない点は改善を要する。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、自分で思考し工夫していく課題になると対応できない点が見受けられる。しかし、成績の面では内容的に妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」では、(1)から(3)に関して「かなりそうだと思う」が5割を超えており、「わりにそうだと思う」を含めると9割を超えている点は、こちらの授業意図が学生にも浸透していたのではないと思われる。しかし、(4)についてはPCを中心とした実習授業であると言う事もあるが、授業内課題については周囲と相談しながら行わせるなど、PCとだけ向き合う事のないようにしたが「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」あわせて6割程度であり、今後の検討が必要である。</p> <p>「学習量の評価」では、(4)について「していない」が7割程度である。授業では自己学習の取り組み方について指導は行っていたが、家庭にPCを持っていない学生もおり、対応を検討する必要がある。</p> <p>また、授業全体を通して与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点に主眼を置いた授業展開を心掛けていた。昨年度は、成績評価とは裏腹に学生が実感できていない点が数値上に表れていたが、今回は改善がはかられている。今後は、更なる数値の向上を目指し、検討を重ねていきたい。</p> <p>学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活の中で必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。また、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点では、昨年度は学生に十分な実感を持たせることができていなかったが、今回はその改善を図ることができた。しかしながら、看護学科という卒業後の進路が明確な学生に対して、どのように専門性と結び付けながら関心を持たせるかという点は、さらなる改善の余地を残した。</p> <p>以上から、教材内容の見直しや、課題提示の工夫など、次回に向けた改善を検討していきたいと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
心理学	1	前期	必修	はい	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>テレビや新聞を見るにつけ現代社会はストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年度に引き続き、全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>昨年度の問題点であった、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみた。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
診療関連技術論	2	前期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「必修科目」(100%)であり学生に選択の余地はないが、「資格取得に必要」(13.4%)、「関心のある内容」(5.2%)も認めており、学生の技術習得への関心がうかがえる。私は今までは臨床の現場で新人看護師の育成を行い、今回が初めての講義である。授業の実施に対して重点をおいたことは、「講義が中心にならない」と「手順の遂行だけにならない」ということである。技術の習得は就職後の臨床の現場である程度の期間があれば可能である。しかしその根拠の理解等は臨床現場で得ることは難しくなる。しかしこの根拠の理解状況が医療事故の発生に大きく影響する。そのため手順の遂行に学生が集中しないように心掛けた。次に今までの臨床現場での経験より、指導をうけるだけでは喜びを感じることができない。できたことを褒められることで、「自分は出来るんだ」「もっと出来るようになりたい」という思いや欲求も生まれると考える。このため学生が少しでも「勉強は楽しい」と実感してもらえるように、できたことは褒める、できていない時はなぜできていないのかを客観的に学生とともに考えるを大切に、授業に臨むことを心掛けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の達成度評価は、試験:60%、レポート10%、実技試験30%による総合評価としている。最終成績の平均値は78.56±8.56点(最高97点、最低56点)であった。成績の内訳は、秀9名(8.9%)、優45名(44.6%)、良36名(35.6%)、可9名(8.9%)及び不可2名(2.0%)であった。不可2名のうち、1名は試験は60%確保できたものの、実技が再試験となり総合評価で不可となった。もう一名は実技試験は合格していたが、試験で60%を下回り不可となった。しかし2名とも再試験では合格となり、2年生101名全員が履修を終了した。学生による授業評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.3)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.2)、「職業選択の参考になった」(4.2)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.1)と、いずれも「4」以上であった。以上より、本科目で「学生が達成すべき行動目標」は、全体的に「達成された」と判断した。しかし試験だけの点数だけをみると、100点満点中、平均は63.9点と決して高くはない状況であり、レポートと実技の点数によって不可を免れた学生がいることも否めない。よって「知識理解」「思考判断」においては「やや達成された」と判断する。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 看護師が行う役割は「療養上の世話」と「診療の補助」に大別される。本科目は、看護学科において「診療の補助」の基本的知識と技術の基本となり、看護実践の基本に位置づけられている。「学生が達成すべき目標」には、そのような見解が反映されており、「学生に期待される成果」も、2年生107名中、優以上が54名(53.4%)と、半数以上が理想的レベルに達していたことから、本科目の内容的妥当性は保証されていると考える。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は演習中心の科目である。科目履修後の学生評価は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.3)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.4)、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.1)と、行動目標に掲げた知識と技術の習得において、高い評価を得ており、DP、行動目標から見て内容的妥当性ありと判断した。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.4)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.4)、「説明は理解しやすいものであった」(4.4)「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.3)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.3)と、格差なく高い評価を得ていた。実際の授業は、講義と演習の組み合わせで、グループ内で2組に分かれ、審査、吸入・吸引、注射・採血の演習を行い、左記の学習終了後は小テストを行い振り返り等を行った。自由記載では、授業の課題以外に学習に取り組まなかった理由として、「他の授業に追われていた」「時間がなかった」を認めたが、「授業で理解できた」「わかりやすかった」等の記述もあり、自己評価も鑑みると、比較的わかりやすかったのではないかと考える。しかし今回は、現在看護学科が保持している模擬体等の利用があまり行えていなかったことも否めない。シミュレーション教育は、現在推奨されている教育方法の一環である。またただ手順・技術を磨くのではなく、アクティブラーニングの手法を更に取り入れ、学生が演習時間内、常に考え思考が持続するような演習方法の更なる検討が必要と考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>実技試験に向けての練習にはほとんどの学生が時間外に自主練習を行っていた。しかし学習量の評価としての「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらいしたか」の回答は、「6回」3人、「4、5回」12人、「2、3回」51人、「1回」23人、「0回」12人で、同様に「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらいしたか」についても、「6回」4人、「4、5回」18人、「2、3回」48人、「1回」22人、「0回」9人で、予習・復習はあまり行えていない現状がある。これより実技試験の技術習得に集中し、それ以外の根拠の理解等の自主学習には時間をかけることができなかつたと考えられる。</p> <p>全体として、今年度は101名の2年生に対して教員4～6名で対応し、公平性や均一性、さらに一貫性を担保しながら演習を遂行するには困難さがあつた。また医療安全の授業単元についてであるが、1～2単位確保している大学もあるが、当大学は独立した単元はない、現在、医療安全の知識・技術は臨床においては必須であり、この診療関連技術は、特に医療安全との関連性が強い。このためこれも網羅しての2単位となり、1つの技術に費やせる時間はさらに限られる現状がある。来年度は114人の履修が予定されており、この困難さはさらに増強する可能性がある。このため教員間の情報共有や周知徹底、予・復習時間の確保を含めた主体的・積極的な学習となるように、演習方法(記録)の相違工夫や、模擬体等をさらに活用しシミュレーション教育の質向上ができるよう、担当教員全員で効果的な策を話し合い実践していきたいと考える。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、既習の専門基礎科目、看護基礎科目、成人・老年看護方法論などの知識を活用する応用科目である。内容は模擬患者事例を用いた看護過程と関連技術を柱としそれぞれ達成度評価をしている。グループは5～6名とし、各グループに担当教員を配置している。看護過程演習では、疾病・検査・治療、発達課題など総合的に関連づけながら看護を展開できることを目標に、個人課題をベースとしたグループワークを行い、個々の学生の学習促進と、グループ間での学びの共有を図った。また、患者を全人的に捉えるために、独自に作成した「ゴードンの11パターンに基づく情報分析ガイド」を用いて患者を捉える視点が理解できるように、グループワークの機会や提出された個人ファイル・グループファイルを通して、きめ細かく指導を行った。技術演習では、根拠のある看護援助が行えるよう、既習の知識と結び付けながら解説し、根拠に基づく実践できるように指導した。特に3年次後期からの実習に備えて成人期、老年期の疾病を持った患者の看護展開の思考過程を修得し、臨地実習で展開できる基盤づくりと言える。課題が多く、演習時間が足りないとの意見があるが、思考過程のトレーニングとして最低限求めるものである。担当教員と調整しながら総合的な視点で科目理解を深めることが必要である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な平均値は76点であり、再試験対象者は1名であった。再試験の結果全員が標準レベルに達した理想的レベル(80点以上)に到達できた学生は30名いた。目標別達成度は「知識・理解」が72%、「思考・判断」が64.9%、「技術表現態度」が87%であった。昨年と比較し「知識理解」が低下しているため、個別対応を行った。全体では真面目にグループワークに取り組み、提出物も期限を厳守することができた。学生の到達度自己評価は「まあまあそう思う」32%、「かなりそう思う」46.6%、「かなりそう思う」11.4%であり、肯定的評価を行っており、一定の成績を修めていることから教育目標は達成できた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、専門教育科目の中の看護実践の応用・展開にあたる科目で、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本をふまえ、成人期、老年期の発達課題と疾病による日常生活の障害に対する看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は1名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>本科目の主要な要素である看護過程の展開は、模擬患者の健康状況から看護診断をし、看護計画の立案・実施・評価を行う演習である。目標別にみた到達度は、「関心意欲」「態度」「技能表現」は80%を超えており、「知識理解」72%、「思考判断」64.9%であった。演習過程は思考・判断を行いながら展開する内容であることから、基盤となる「知識理解」、「思考判断」の水準は低く、高い水準を期待したい。しかし全体的には、一定の成績を収めていることから、内容は妥当であると考え。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の授業の質評価では、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」と回答しており、平均値も3.7から3.9であり、「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」は3.8と高く、グループワークの成果であると考えられる。</p> <p>看護過程演習は、1グループ5～6で構成、全体は18グループであった。教員2名が、3グループを担当し指導を行った。授業開講前に教員間の指導の統一を図るため、事例検討を行い、共通認識できるようにした。しかし、学生の自由記載に「教員によるバラつき」を指摘する声があった。本年度は新任教員も多かったため演習前の検討に加え、演習途中でも教員間の情報交換を行い、調整を進めた。今後さらに協議し、質の向上に向けた取り組みをする必要がある。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の「看護実践・応用」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと思えるが、個人差が大きく、「思考判断」の64.9%については検討の余地を残した。また、学生の受講動機には、「資格取得に必要である」は6.0%と低く、科目の重要性についても伝えていく必要がある。また、教員間の共通認識の徹底および理解を深める課題への取り組みと時間の確保、学習環境など考慮し、同時開講中の他の科目との調整をし、学生の意見を大切にしたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人・老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>専門科目である成人・老年看護学概論は2年生前期の必須科目である。ガイダンスでは科目に位置づけを説明し授業を進めた。看護の対象理解を青年期から老年期の発達課題の特徴、成人期・老年期にの人々に関わる保健・医療・福祉における動向や、疾病の特徴、また成人期や老年期における看護の特徴を解説し、関連する看護理論について教授した。毎回、授業の「ねらい」を伝え、既習の学修が想起できるように発問を繰り返しながら進めた。理解を深めるために身近な事例を提供し関連づけながら解説した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均点は74.5点、最高点は93点であった。対象理解の基本となる概論で、特に成人期は範囲が広く、内容も抽象的ととらえられがちである。内容の暗記に頼りがちな学習傾向から昨年度の再試験の対象者は30名いた。本年度、出題方法を選択式に変えることにより、再試験対象者は4名であった。再試験申請者の3名は表示標準レベルに到達できた。学生評価による説明の理解は70%程度であり、学生の学習と発達段階を踏まえ、具現化し理解が深まるような教授方法や教材の工夫が必要である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、必須科目である。成人期・老年期の具体的方法を学ぶための導入科目である。受講動機として資格取得に必要であるが6人、「関心のある内容である」が1名と少なく、必須科目であること以外の特別な動機は把握できなかった。最終成績では一定の結果を得ていることから内容的には妥当であると考える。②</p> <p>DP:行動目標から見ての内容の妥当性 本科目の行動目標として①成人期・老年期にある人々の特徴、②環境が健康に及ぼす影響、③健康に関わる保健。医療、福祉システムの概要、④成人期・老年期の健康障害の特徴、⑤成人期・老年期の健康レベルに対応した看護方法の特徴、⑥成人期老年期に活用できる理論・モデル、⑦加齢による心身の変化に対応した生活機能、援助の意義と方法をあげ、これらを述べる事が出来るとしている。これを基に達成度を見たところ「知識理解」は80.2%、「思考判断」は60%台であった。評価につながる出題傾向を変えたことにより評価点は向上したものの、併せて「思考判断」も運動して高まるよう工夫したい。目標は概ね達成されており妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方は老年では予習して臨めるように、単元ごと事前に資料を配布した。意図的に課題を課すことで学習し、学びにつながっている。自己評価では達成度が高いものの、小テストによる理解度の把握にとどまらず興味・関心を抱き、意欲の向上に向けた更なる学生への取り組みが必要である。授業の質評価では各項目の平均値が3.6～3.9であり知識の確認や修得は向上している。さらに上方移動する努力が必要である。また、学習量の評価では予習・復習とも(0)と答えた学生が昨年より改善したものの約3割弱いる。課題を課す以外にも学習を促すための働きかけが必要と考える。学生には後期の成人急性期看護方法論、成人慢性期看護方法論、老年看護方法論につながる科目だということを強調し、方向性を示しながら具体的な内容について調整を行い次年度の講義に臨みたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は専門教育科目の成人期・老年期看護学の導入科目である。最終的な成績や観点別の到達度とも一定の成果をえた。また、98%の学生が到達度自己評価で肯定的な評価をしていることから、教育目標はほぼ達成できたと考える。ただし「思考判断」が70%に満たない低い状況にあり課題を残した。後期にある各論で強化していく必要がある。次年度は授業の準備性を高め、学生の思考の方向性を把握しながら授業に臨みたい。また、概論は抽象的な概念を解説するため、学生にわかりやすくポイントを押さえて講義が出来るよう内容と進度の検討を行っていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	1	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①選択科目のため受講者のモチベーションを上げる意味で、本科目の一般教養科目としての位置付けを明確に説明した。また、科目の狙いを詳細に説明することで興味関心を持てるよう初回にパワーポイントを用い講義した。</p> <p>②レポート課題、グループ討議(GW)の評価については、評価項目と点数配分を明確に示した。課題で学んで欲しい狙いについても詳細に説明した。</p> <p>③レポート課題は、図書館でデータベース検索を行い、複数の文献、事例をもとに作成するように指示した。事前に図書館スタッフに協力を仰ぎ、学生に積極的に図書館スタッフに相談するよう話をした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①総合評価の平均値は90点(±5.0)であり、受講者全員が標準的レベル(60%以上)に達し、かつ、理想的レベル(80%以上)に達していた。</p> <p>②知識理解の達成度は92%、学生の「知識理解の到達度自己評価の平均値は4.4」、「知識を確認、修正、新たに得ることができた」については4.9であった。また、思考判断についての到達度は96%で、学生の「到達度自己評価平均値」も4.8と「事象(自然・人・社会)を理解する視点や考え方を得ることができた」と回答している。</p> <p>③授業の質評価は、昨年よりも評価が高かった。「課題レポートの評価基準の明確さ5.0」、「説明の理解しやすさ5.0」、「自分の意見をまとめる・話し合う・発表する5.0」で、とくに「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という学生の到達度自己評価が4.8とGWの講義手法は効果的であった。</p> <p>④学習時間については、1回30分以上の予復習をした学生が100%、2回以上75%、4回以上37.5%と、年々学生の学習時間が増えている。また、図書館利用率88%、インターネット利用率80%、学術データベース利用率63%も同様に年々高くなっている。図書館利用を積極的に指導し、図書館スタッフの協力が得られた結果である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 一般教養科目として、身近な生活の中から自然と環境、および環境問題を考えるという本科目は、一般教養や基礎知識を培い、課題解決をするための方策を学ぶ科目として内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断の到達度も全員標準レベルに達しており内容は妥当であったと思われる。</p> <p>③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業改善を年ごとに行ってきた。特にレポート課題やGWにおける評価を図書館の利用および自主学習の促進に繋ぐよう設定し、その評価の意図を学生に明確に伝えたことは良かった。また、図書館スタッフとの連携も効果的であった。学生が、図書で調べる、事象を探る、自然について考えるなど主体的に学ぶ姿勢が見受けられ、今後も上記の取り組みを継続し行っていく。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と基礎知識を培うという目標は達成できた。学生の自主学習については、講義中に学習状況を把握する工夫と自主学習促進に向け今後も図書館スタッフとの連携を続けたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。</p> <p>②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めている。講義の開始には前回の内容の「キーワード」の復習から行なった。</p> <p>③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は82.6点であった。</p> <p>②身の回りの化学から受講生のおのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であると考え。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>全体に向けて質問しても答えてくれないので、指名して質問するようにした。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。化学は範囲が広いので、学生に意見を聞いて学生がさらに関心を持つような講義項目を加えるのも課題かもしれない。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	野原 三郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒・進路指導論	3	前期	選択	はい	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①「学生の授業評価アンケート」より、受講動機として「必須教科である」が100%となっており、教員免許取得に向けた意識が強いことが分かる。②近年学校・生徒をめぐる事件事故の発生に伴い、学校・教師の危機管理意識やコンプライアンス意識の不足が指摘されている。従って授業内容については、授業の導入にあたっては、現在進行している教育問題や児童生徒に関する事件事故についての新聞記事を用い、学校現場や社会に直結した授業となるよう工夫した。③教育課題の解決については、学生に関係法規や中教審答申等を提示しながら、問題解決型の講義を行った。さらに、講義の後に演習としてSST、構成的グループエンカウンター、犯罪やいじめ防止のロールプレイングを行うなど実践的な内容となるよう工夫した。④受講生は全員3年生であり、実社会への接続期となり、学校教育に関する意識や関心を持たせるため、現代の教育課題についての論作文を提出させ、添削を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> <p>・達成度自己評価について ① 到達度自己評価の「自分なりの目標を達した」の項目では、「かなり」が1名、「わりに」が1名、「まあまあ」が2名となっており、否定的回答はなかった。 ② 学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名,3名,0名」となっており否定的回答はなかった。 ③ 学生の思考判断に関する<検討する力><判断する力>それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名,3名,1名」であり否定的回答はなかった。 ④ 同じく意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名,3名,1名」の順となっており、否定的回答はなかった。 ⑤ 技能表現に関する<技術>とは肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順「0名,3名,1名」の順となっており、否定的回答はなかった。 ⑥ <コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名,2名,2名」となっており、否定的回答はなかった。 ⑦ <職業倫理>や<職業選択>での肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名,2名,1名」となっており、否定的回答はなかった。 ⑦ <職業選択>だの肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名,2名,2名」となっており、否定的回答はなかった。 全体として否定的回答はなく、肯定的回答「わりに」が最も多くなっているが、「かなり」と回答した学生が少なく課題が残る。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>5. DP,CP,カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価</p> <p>教職課程における本科目の位置づけからみても内容の妥当性については、受講動機として「必須教科である」100%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり、位置づけ動機づけの一つとしている。こうした学生の志向に応えるためにも、近年の教育の動向を踏まえた内容を工夫し、学生も一定の成果を収めており、内容の妥当性はあるものと思われる。特に児童・生徒の問題行動への対応の在り方についての基本的理解や構成的SST等の演習は、教育実習を充実させる上でも本教科の内容の妥当性があると考えられる。</p> <p>近年、学校内外において予想を超えた様々な問題が発生し、その都度学校・教師の危機管理意識の欠如が厳しく指摘されている。これらは従来型の問題行動以上により対応が難しく、学校・教師に大きな責任が課せられる。これらの児童生徒に関する災害や事件事故への確に対応するには、① 学校保健安全法をはじめ安全に関する様々な法規についての理解とコンプライアンス ② リスクマネジメント、クライシスマネジメントの在り方 ③ 体験を通じた防犯・防災教育の指導方法、の三点が必要であると考えられ、本教科でも出来る限り取り組んでいる。このことは教師をめざす学生にとって必須であり、本教科の内容の妥当性があると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>6. 授業の進め方とその方向性について</p> <p>① 学生自身が課題解決に向けて主体的に学習する姿勢を持つようブレインストーミングやKJ法を用いて意見表明やコミュニケーション能力を育む機会を設けた。</p> <p>② 「授業の質の評価」については(1)<評価基準>の平均値が「3.8」中央値「4」になっており、まだまだ改善が求められている。また、授業中の学生の意見として「スライドが早すぎて内容がよくわからなかった。」「スライドを順番通りにしてほしい。」とスライドの提示に関するものがあった。その要因として、シラバスの消化にこだわるあまり、学生が授業内容を十分に咀嚼できないままに授業を進めたことにある。</p> <p>③ 「学習量の評価」については「(1)授業の準備」については0回と回答した者が1名、1回と回答した者が2名、2,3回と回答した者が1名となっている。</p> <p>④ 「復習」についても同数である。家庭学習として、論作文の課題を計3回課し、添削を行った。</p> <p>以上の点から、学生が協力し主体的に課題解決を図るような授業の追求が不十分である。また、知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くための工夫がさらに必要である。</p>
---	--

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総合的評価と課題をお願いします。</p>	<p>総合的評価として否定的回答は少ないものの、学生の知的欲求や能動的学習意欲を十分に満足させるものではなく、授業改善を図る余地が大きい。以下に本年度の課題解決に向けた対応について述べる。</p> <p>① PBLやアクティブラーニングを推進する。</p> <p>② 知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くために、授業の終わりに毎回小テストを実施する。</p> <p>③ 本年度、取り組みはしたが十分な時間が確保できなかったブレインストーミングやKJ法、開発的生徒指導の例としての構成的グループエンカウンターなど、実践的な活動を充実させる。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かかわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業を展開できるようにした。具体的にはグループ毎の発表を多く取り入れ、発表後にディスカッションし、活発に意見交換ができるようにした。受講動機は、100%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。</p> <p>②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウツの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。また、今年度はストレングス理論を取り入れ、精神障がい者への援助方法の理解ができるようにした。</p> <p>③ストレングス理論を新たに取り入れたこと、これまでの実習における学生指導を振り返り、記録用紙の改善に取り組み、その記録用紙を実際を使って演習を進めた。学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教2名と共に行い、精神看護の個別性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。</p> <p>④配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。</p> <p>⑤今年度も昨年度に引き続き実習病院の指導者に演習の一部に参加していただき、学生に精神疾患を持つ人のイメージがしやすいように助言してもらった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>最終的な成績の平均値は75.6(±9.73)点であり、再試対象は6名であった。67名(73.7%)が標準的レベルに達した。理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは34名(37.4%)であり、半数以上がこのレベルに達するとよいと思われる。成績の内訳は、A(秀)が4.4%、B(優)が33.0%、C(良)が36.3%、D(可)が18.7%であった。</p> <p>目標別に見ると、思考判断に関しては70%、意欲関心に関する問題は70%、態度に関しては80%であった。精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。</p> <p>学習到達度の自己評価の平均は3.64であり、「ままそうだと思う」「わりにそうだと思う」が90%を占めていた。授業への準備状況として、予習の時間0回が36%、復習の時間0回が40%となっているが、毎時間、予習・復習に相当する課題を出していたので、課題以外の学習する時間がなかったということなのであろう。提出率はほぼ100%であったので、授業時間以外の学習はできていたと思われる。図書館の利用率は58%という結果であったので、もう少しさまざまな資料を見て学習し知識量を増やすといいと思う。</p>					
*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度がやや低かったが、提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、グループワークで主に進めたことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、平均は3.7であり、「ままそうだと思う」「わりにそうだと思う」が90%を占めていた。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開しているが、疾患の理解が難しいため事例の工夫等を重ね、さらにわかりやすい解説をしていきたい。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点は、3.8で項目の中で最も高い評価であった。グループワーク中心の演習で、発表の機会を多く取り入れ、全体のディスカッションもできたので参加型の授業ができた。</p> <p>例年、学生の意見として、他の教科の課題に追われていたという意見があるが、臨地実習前の学期であるため、学習量が多くなるのは致し方ない。学生が計画的に学習に取り組めるように、課題の全体像が見えるように前もって提示した。そのため計画的にでき、負担感が少なかったという意見もあったため、次年度もそのようにしたいと思う。実習病院の指導者さんに一部演習に参加していただいたことは、精神疾患を持つ患者の状況がイメージしやすいと好評であった。講義を取り入れてほしいという意見もあったので次年度は考えてみたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神科看護の専門応用へとつなげていかなくてはならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。課題の提出率もよく、自己学習が進んでいるように思えたが、グループワークの中で十分な学習ができない学生もいたと思われる。次年度は、個別に知識の定着が図れるように工夫しつつ、さらに効果的なグループダイナミクスが発揮できるように授業を進めたい。学生の意見としては、他の教科の課題両立に困難を感じているが、実習や国家試験のことを考えると簡単に少なくすることも躊躇され、学生が乗り越えられるように工夫していきたい。臨地実習への準備および国家試験対策としての知識の整理、思考判断ができるよう、内容の整理を行い、来年度に向けた改善を進めたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合人間学概論	1	前期	必修	はい	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1年次前期の科目であり、本学の教育目的を達成するために、最も基礎となる科目である。本学の建学の精神、教育目的等を最初の講義で理解させ、女性として専門的職業人としての生き方を実際に活躍している女性から受講する形態をとり、学生の関心を高めている。受講動機は「関心のある内容である」は1.1%と低いものの、最終レポートにおいてはこれらの講義の影響が色濃く出た内容となっており、女性として専門職業人としての生き方を考える契機となったことが伺える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は78.9点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達しており、理想的レベル(90点以上)に達したのも6名ある。学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(平均値4.1)、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」(平均値4.1)、「～課題検討する力」「～的確に判断する力」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(平均値4.1)と高く、知識理解(DP1)、意欲関心(DP3)の観点からも達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科学(心身と健康)科目」であるが、入学後本学の特性を理解し、女性職業人として生きることを考えさせる必修科目である。成績評価や到達度自己評価からみて一定の成果を収めており、内容的には妥当である。</p> <p>②DP:行動目標からみた内容的妥当性 成績評価、到達度自己評価からみて、DP:行動目標を達成しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においては、5項目中3項目については平均4.0前後の値を示したが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつけられていた」については平均3.5,3.4という値であった。受講生250人以上では双方向の授業は難しいが、今後講義内容によってはそういった機会をつくることも検討していく必要がある。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>「総合人間科学(心身と健康)科目」に位置する本科目は、入学後本学の特性を理解させ、女性職業人として生きることを考えさせるという行動目標について、達成できたと考える。しかし、意見交換、学生参加の機会、学習量、情報利用、図書館利用については、今後とも検討していく必要がある。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	岡田 健一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対人関係論	1	前期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>[授業への動機付け向上]本教科は必須教科である。授業評価アンケートの結果でも、「必須科目である」以外の受講動機は、すべて1割を切っている。しかし、「必修だから履修しなければいけない」という受け身の態度では、学習内容が深く身につくことは望めない。そのため、1)扱う題材を学生の日常生活に近い題材にする、2)学ぶことで学生の現実の人間関係がどのように変化するのか事例で示す、3)お互いの意見の中から新しい視点や考え方を学べる構造にするなどの工夫を行い、対人関係を学ぶ楽しさや、成長の実感が感じられるようにし、授業への意欲が上がるようにした。</p> <p>[集団作り]本授業は、1年生前期に配置されている授業である。それまでの高校生活から一変し、夢に向かう専門的な教育が受けられるという期待と、新しい集団に馴染めるかという大きな不安を抱えている時期である。この先4年間の学びを積み重ねていくための基盤作りとして、1)学科の学生と知り合いになり、自分が落ち着けるグループを見つけれれること、2)意見が違う場合でも喧嘩に発展せず、違いを楽しめるだけのコミュニケーションスキル・態度を身につけること、3)人間関係を維持するために必要な情緒的安定を確保するスキルを身につけること、の3点を、授業で学んでもらうよう、工夫した。</p> <p>[授業への参画]毎回の授業レポートに学生の意見、感想を書いてもらい、次の授業でクラス全体で共有したり、講師の意見を伝えた。また、学生の意見に応じて、必要な補足や、授業計画の変更を行った。授業評価アンケートでも、「学生が参加する機会」や「質問を受け付け、答える機会」は、に8割以上の学生が最高評価の5点をつけており、学生にも伝わっていたようである。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>[知識理解 (DP1)]授業で取り上げたワークを元に、自分の特徴を振り返って自己理解を深めたり、他人と関わる上で必要な人間関係上の知識や態度を身につけていった様子が、毎回の授業アンケートから感じられた。授業評価アンケートでも、「自分の性格などに気づけた」、「人間関係のポイントなどを学ぶことができた」、「相手の立場になって考え、自分の気持ちに素直になることが大切と学んだ」、「人とどのように関われば良いか分かった」と、自己理解や対人関係の理解、良好な対人関係を築くスキルが身についたという感想が多数寄せられている。</p> <p>[技能表現 (DP5)]授業の最終課題では、授業で学んだスキルや態度を、家族や友人、アルバイト先などで活用し、それまでとは違う人間関係を持てるようになったことが報告されていた。また、「毎回シャッフルしてグループワークを行う」という授業の進め方に、最初はきついと感じる学生も少なくなかったが、徐々に自分なりに挑戦し、グループの中で発言したり、受け入れられたりする体験を通し、積極的に他人に関わっていく態度を身につけて行ったことが、毎回のレポートで確認された。授業評価アンケートでも、「自分の意見を言う力がついた」、「コミュニケーション能力を高めることができた」、「人間関係で困った時の対処法が分かった」、「日頃の悩みを軽減できる」など、コミュニケーション能力や自分の情緒的安定を維持する能力が高まったという感想が多数寄せられている。</p> <p>[全体を通して]最終成績の平均値は84.2 (SD5.4)であり、最低限のレベルに到達していないもの(再試対象者)は0名であった。86.2%の学生は、理想的なレベル(80点以上)に到達しており、多くの学生が、授業の目的を達成できていたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>看護職として必要な対人理解や、自分の情緒のコントロールを身につけるとともに、この先4年間学びを深めていく学生集団づくりにも役立つと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>[授業内容]現在の授業内容は、学生の興味関心に近く、概ねこのままで良いと思われる</p> <p>[私語への対策]大学生活にも慣れてきた授業後半は、前半に前回の授業の感想を紹介する部分で、私語が出てくることが多い。この点に関しては、「講師が感想を読み上げるのではなく、各自で読む時間をとる」、「すべての感想を扱わず、一部をピックアップしてコメントする」などの対策をとり、数年前より随分私語が低減している。それでも、授業評価アンケートで「授業中、うるさいのをどうにかして欲しかった」、「もう少し怒り方を身につけた方がいいのでは」、「いろんな授業がこんなうるさいとは思ってなかった。他の授業でもきつく怒らない先生が多いので、真面目に勉強したい人は困っていた」という授業改善の提案が上がってきており、さらなる工夫が必要だと思われる。「講師が学生を叱る」という形で私語を低減させることは、「力が強い立場にある者が、弱い立場にある者を、力で思い通りに動かす」ことになるため、看護師(患者から見れば圧倒的に力が強い立場の存在)を目指す学生にはその手は使いたくない。また、グループワークを成立させるためにも、萎縮しなくていいオープンな雰囲気は維持する必要がある。120名近くの学生を相手に学びの環境を整えるのは難しいが、今後も力を使わずに伝えていくという方向で、考えていきたい。また、本授業だけでなく、様々な授業で私語の問題があるようなので、全学的にも取り組む必要がある課題だと思われる。</p> <p>[授業以外の学習量の確保]授業評価アンケートによると、授業以外の時間での学習(準備・復習)はほとんどなされていないことが分かる。それでも、前年度と比較すれば、予習を全くしなかった学生は約81%→47%、復習を全くしなかった学生は約77%→40%と、大幅に改善されてきている。引き続き、授業以外の学習量の確保に努めていきたい</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>[総括的評価]“「人付き合い」と「自分付き合い」について学びを深めていく”という授業の目標は、多くの学生にとって達成されたと思われる。</p> <p>[課題]私語への対応、授業以外の学習量の確保が、今後の課題として残されている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地区活動論演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>「公衆衛生看護学実習」に必要な地域アセスメント技術を修得する演習科目であるため、実際の実習地域の人口統計・健康指標データ等を用いて、各実習施設の情報収集・アセスメントを行えるよう情報ソースを確認し準備した。受講動機を%（前年度目である）平均値81.3%（前年度82.4%）、「資格取得に必要である」平均値75.0%（前年度52.9%）で、資格取得科目であることの動機が増加した。「関心のある内容である」では0%と学生の準備状況は低かった。初回に実習施設である自治体の概要についてプレゼンテーションを行い、地域への関心を高める動機づけを行った後に、保健統計等の情報収集分析に進むよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は86点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは8名であった。</p> <p>目標別に見ると、思考判断に関する問題は86.4%(前年度75.3%)で、地域アセスメント課題について、健康指標の知識を十分に応用して、実際のデータを読み取るか、また、経年的な見方や他との比較の仕方など、基本的な知識の応用ができた学生が増えた。</p> <p>学生による授業評価においては、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」平均値4.1(前年度3.8)「的確に判断する力を得ることができた」平均値4.1(前年度3.3)で最も高く、また前年度より改善された。成績の改善度との整合性が確認された。</p> <p>「職業倫理や行動規範」平均値3.5で最も低かった。地域情報の取り扱いなど、住民データの情報管理について、次年度は説明を補足していく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。3年生前期の「地区活動論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のみである。実習に向けて動機づけは高いと思われるが、毎回、課題学修内容をもとに演習を進めるため、授業外の学習量も多く、また実習に向けた演習科目が2科目同時に進行することもあり、モチベーションの維持に苦慮する面がある。この課題にこたえるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が前年度より改善され、また、思考判断の力は獲得できたと感じている学生の割合も平均値3.8(前年度3.6)で、客観評価と主観評価ともの改善した。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、高かったものは「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値4.4(前年度4.2)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」平均点4.3(前年度4.0)と改善し、参加型演習による授業の進め方は、学生も、その効果を認識することができていると考えられた。また、地域診断の主要な情報ソースはインターネット上に公開されているデータであるため、図書館及び情報室の活用率が高く課題学習を行っていることが把握できた。学習量では、毎回事前準備を必要とする課題を提示していたため、全回を通して前後の学習時間が必要であったのだが、2～3名は「1回30分以上の準備」を行っておらず、グループへの貢献度が弱い学生がいることが明らかになった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門応用科目の主要科目にあたる本科目の位置づけられる科目である。前年度には思考判断で課題を残していたため、今年度は集中講義の期間中に到達可能は達成目標の見直しを行った。その結果、到達レベルの改善だけでなく、学生の到達自己評価、授業の質評価ともに全体的に改善されたといえる。限られた集中講義期間で、実習までに必要な地域診断の内容を思考判断できることを目標に、時間割運用や情報源の提示の方法等、授業の進め方の工夫が継続課題である。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>平均点は74.2点(昨年度は73.2点)、合格率は100%(昨年度は94%)であった。平均点を70点程度と予想していたがそれを上回った。秀は9%名(昨年5.9%)、優は27.3%(昨年度は35.3%)であった。昨年度と比較し、優の学生層が薄くなっている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 指導案の内容を見ると、教材研究のオリジナリティという点で更なる向上が必要と感じる。きちんと約束事を守った指導案というレベルには達しているが、より深い教材研究や授業方法への工夫など改善することができるだろう。このあたりは英語学科と同様の傾向が見られる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>「秀の学生を増やすことが今後の課題である。」と昨年度のリフレクションカードに書いたが、この点は達成できなかった。基本的な部分は達成できたが、自分なりの工夫という部分で弱いと感じている。学生自身の興味関心という点で問題があるだけでなく、具体的にどのような形で授業を構想すればよいのかという点を理解してもらえるような工夫を行いたい。自分なりの授業を作る意欲という点で更なる改善が必要となる。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	近藤 憲一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 受講動機として100%の受講生が「養護教諭免許の取得のため」と回答している。そのため、できるだけ養護教諭を想定した事例等の準備を行うなど、受講への興味関心を醸成しようと考え、資料や事例等の選択・取扱いのできるだけ工夫し受講への興味関心を高めるよう努めた。</p> <p>② 昨年度と同様、授業の最初に小・中・高等学校時代の特別活動の思い出を記述する時間を確保するとともに、互いに思い出を交流し合うことを通じて、特別活動への様々な思いに触れさせ、特別活動への興味関心を深めるよう受講動機の強化を図った。</p> <p>③ 10回の講義後、これまでの講義から誘発された問題意識の中からテーマ設定したレポートを提出するよう課題を与えて、これまでの学習状況を振り返るようにした。また、その際、レポートの記述の参考となるレポート事例資料を配布し、課題追及への興味関心とレポートの質的向上を図った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は82.5点であり、再試対象者はいなかった。「理想的レベル(概ね80点以上)」に達した受講者は61.5%であり、「やや不満足なレベル(60点～69)」の受講生はいなかった。受講者による到達度自己評価及び授業の質の評価においては、中央値は、コミュニケーションの項目を除いて他はすべて4といった状況である。また、平均値は、3.5～3.9であった。今後とも、到達度自己評価や授業の質評価の向上等に向けて、できるだけ分かりやすく具体的資料や事例や場面等の選択・取扱い等に工夫するようにしたい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、養護教諭免許の取得には必修の内容であるが、受講生も満足する成績を取めていることから内容的妥当性には問題はないと思われる。今後とも、免許取得を前提として受講している受講生の希望にさらに応えることができるよう工夫することが求められている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価、情報利用、図書館利用のいずれも、二極化の状況が見受けられる。例えば、シラバスの活用では、「参考にした54%」、「しなかった46%」、図書館の利用では、「利用した54%」、「しなかった46%」、学術データベースの利用では、「利用した31%」、「しなかった69%」、インターネット利用では、「利用した54%」、「しなかった46%」といった状況である。そのため、今後は、一人一人の状況に応じたきめ細かな指導も求められていると思われる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>特別活動の特質、目標、内容等についての基礎的知識の形成については十分達成することができたと思われるが、なお一層の具体的資料や指導の実際の事例提供について工夫が求められている。その背景には、本科目の受講生には、中等教育の英語教諭(学級担任)を目指す者と、初等、中等教育における養護教諭と栄養教諭を目指す者が共に受講していることがある。そのため、特別活動の具体的な指導のあり方について、受講生の興味関心をできるだけ高めるための調整を図りつつ、さらなる工夫が求められている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学	2	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、「必修科目であるための受講」であるため、資格取得希望者全員が受講していたと考えられる。人の生涯発達についての学びを基礎として、今後の授業の中で対象に対するアセスメントを行う際の考え方を学べるように授業準備を行った。また、スライドに写真素材を加えるなど、講義内容に沿った対象のイメージが浮かびやすいように配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>最終的な評価は、平均84.9点(最高点96点、最低点68点、A-22人、B-65人、C-15人、D-1人)である。80%の学生がAまたはBを取得している。また、平均点も前年度より4点上昇していることから目標はやや達成されたと考えられる。</p> <p>授業評価アンケートの到達度自己評価においても、「自分なりの目標を達成した」かについて、ほぼ全員が「まあまあそうだと思う」「わりとそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択しており、学生たち自身も科目の目標を達成したと自覚していることがうかがえる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「専門科目」における「看護を学ぶための基礎」に位置付けられている。学生の授業評価アンケートの到達度自己評価においても、ほとんどの項目で「まあまあそうだと思う」以上の回答が得られている。また、自由記述において本科目内容への関心が高まっている学生や、実際に対象に触れ合う機会(ボランティアでの触れ合いなど)を作った学生もいた。これらの事から内容的妥当性には問題ないと考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業は主にスライドを基本として教師からの説明が中心となった。「授業の質」については3.8点以上の評価がなされているものの、アンケートにおいて、講義の中で対象への働きかけ方の事例の示した際、学生たちへの働きかけと誤解されていることがわかった。また、配布資料のスライドは提示する分とは別に作成し、学生が授業で書きとることによる理解を促したかったが難しい学生もいたようであるため、資料と説明の量のバランスを考えていかなければならないだろう。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全体的には、概ね授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。しかしながら、まだ学生への配慮、意欲の引き出し方が十分でなかったかもしれない。本科目が今後の学びにつながる事がイメージできるように働きかけられるよう改善していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健医療福祉行政論	2	前期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では、社会保険・社会福祉・公衆衛生の3つを柱として展開している。中学・高校の社会科(公民)で学んだ内容が基盤であるが、看護学科の学生はかなりの苦手意識がある。受講動機を見ても、「必修科目である」から受講しているものであり、「関心のある内容である」は2.9%である。そのため、学生の「苦手」を前提に講義内容を組み立てている。</p> <p>毎回、講義の最後に出席シートに授業の感想、質問を記入してもらう。出席シートの書かれていた内容を見ると、「わかりやすい」と「全く分からない」の両方の意見があり、また、「スピードが速くてついていけない」と「ついていける速さだった」の両方の意見があった。このことから見ても、多様な学習準備性があり、そのレベルに焦点をあてて授業するかに苦慮した。全員にわかってほしいため、中学・高校で学んだ内容から復習し、講義の流れに沿ったオリジナルプリントとスライドで解説している。授業後に記入された質問には、紙面にコメントまたは次の授業で回答した。学生は授業中やみんの中ですら質問することができないため、出席カードの質問は大事に扱っている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績は、平均点71.4点であり、再試験対象は13名であった。成績の内訳は、秀2名、優20名、良46名、可35名、不可4名(うち再試験未受験3名)であった。</p> <p>テストは、暗記で回答できる部分と、暗記だけでは回答できない事例を使って問う問題を作成している。その中でも、事例部分の回答に差が見られた。授業内で実施した事例であったが、理解の差が出ていた。昨年はグループで事例検討を実施したため、授業参加の積極性によって理解の差が出ていた。今年は、個々が頑張るために個人で考えるようにしたが、模範解答が出るまで待っている学生も多数あった。自分で思考する動機づけを強化する必要がある。</p> <p>レポートは、「形式」「独自の考え」「根拠」「一貫性」「提出期限」を指標に採点した。「序論・本論・結論」の形式が出来ていないレポートが7割近くあり、さらに、文献の内容が大部分であったり、文献の内容なのか自分の考えなのかわからなかったり、といった内容が目立った。独自性のあるレポートになるための指導の必要性を感じた。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>社会保険、社会福祉の制度、法的根拠、対象、サービス内容、について解説し、2～3回分の講義内容について事例を通して振り返った。これは「知識」を確認し、事例に合わせて「思考・判断」するための取り組みであった。実際の現場では対象に合わせてサービスを判断せねばならないため、制度やサービス一覧の配布資料を眺める勉強法では対応できないことを意識づけたい。</p> <p>また、看護学を学んでいくための基礎知識として欠かせないと同時に、看護師国家試験においても一定数の問題が出題されている。自分や家族にも関連した制度であること、自分の生活にも関係することとしてイメージできるように解説していきたい。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本講義をわかるためには、基礎知識を覚えることが必要になる。予習、復習をシラバスで提示しているが、30分以上の予習、復習をした回数が0回と答えている学生が全体の4割、1回と答えている学生が2割、であった。必要なことは、課題として学習してもらうことも検討したい。 講義の出席カードに、時々、「国家試験にはこう出る」として問題を載せているが、このような機会を多くして、受講意識を高めていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生にとって法律について苦手意識があるが、科目の重要性を説明して主体的に学んでもらえる動機づけをしたい。また、授業のねらい、達成目標、評価基準を共有し、学生自らが学ぶ目標をもてるようにしていきたい。その結果として、「知識・理解」と事例に対応できる「思考・判断」の達成度が上がる事を目標としたい。 教材は、効果的なものを提示できるように、学生の意見を取り入れていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学演習	3	前期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、母性看護方法論に引き続き、3年生後期から始まる母性看護学実習に必要な母性看護技術やウエルネス診断をふまえた看護過程の方法を習得することを意図して技術演習と看護過程演習を計画した。看護過程演習については、今年度も他教科の課題を考慮し、看護過程をまとめる時間を講義内で確保するために個人ワークの時間を設けた。さらに今年度は学生を5グループに分け各グループに担当教員を配置し、学生からの質問に迅速に対応し、ディスカッションを取り入れて理解が図れるよう講義の方法を工夫した。看護過程をまとめる対象についても産褥期・新生児期に絞り、学生の理解が深められることを期待した。技術演習については、沐浴を中心に母子に必要な支援技術絞り実施した。沐浴については、技術試験を実施することから学生が講義内で練習し不明な点を教員に確認できるように技術の取得や理解に努めた。</p> <p>また、講義の中で出産を控えた夫婦を撮影したDVDを視聴し、周産期の女性やその家族の実際をイメージたうえで、講義での学びも併せて母性看護について自己の意見をまとめる機会を設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は82点であり、再試対象者は3名であった。ほぼ全員が標準レベルに達した。さらに、70%以上が理想的レベル(概ね80点以上として作成)に達していた。</p> <p>目的別にみると、知識理解に関しては85%、思考判断に関しては80%、関心意欲に関しては90%、技能表現に関しては80%であった。</p> <p>全ての目的において数値的には目標達成できていると思われるが、個々でみると個人差が大きく、到達度自己評価や授業の質についても平均値は3.0-4.0点であるにも関わらず、数名は「そうでないと思う」と回答しており、講義の方法については今後も検討が必要である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、「看護実践の応用・展開」に属し、周産期に属する対象者に必要なケアを提供する能力を育成するための必須科目である。学生は一定の成績をおさめていることから内容的妥当性は問題ないと思える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>看護過程演習について、他教科の課題も配慮した方法を検討し取り組んだが、学生間で進行過程に個人差がみられたり、説明がわかりにくいといった意見もきかれことから、今年度は、グループ化し講義時間内は常時教員が対応できるように準備した。しかし、結果的には十分に活用するまでに至らなかった。 今後は、学生からの意見も参考にし、全員が同じペースで進むよう自己学習の課題を明確にし、講義内でディスカッションを実施し意見交換や質問を通して理解を深められる機会を設けたり、解説の内容も見直すなど、学生にとって効果的な講義となるよう検討していきたい。 技術演習については、ほぼ全員が目標達成できているため、方法については妥当であったと考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>全体的には目標達成できていると思われるが、個人差もみられることから、今後は受講者全員が満足した講義であるように、講義内容や進行方法について学生の意見を取り入れて改善していきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学概論	1	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「単位数を確保する」70.0%、「関心のある内容である」50.0%であった。資格取得には直接結びつかない科目であるゆえか、関心のある内容であると答えた学生は昨年度より増加している。ただ、保健福祉学部3学科同時開講の科目のため、看護に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>前期試験の平均は70.7点で、再試験対象者は1名、理想的レベル(80点以上)に達した者は2名であった。前期試験の出題形式は、昨年度より大幅に改め、従来の知識理解を文章で論述する形式に加えて、重要な語句を解答する(いわゆる穴埋め)形式および具体的な事例に合わせて法的な知識理解に加えて、支援する態度も併せて問う形式で出題したが、知識理解の論述について、要点を適切に押さえきれていない答案が散見された。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.6、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.1と高く、「自分なりの目標を達成した」の平均値も4.1であることから、学生の目標達成度は高い。また、DP1には加えていないが、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値もともに4.1と高い。これは「法学概論」という科目そのものの特性のほか、講義の中で社会における具体的な事件を用いて説明したことにより、講義のポイントを学生が理解できていることによると思われる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないことから、どうしても「単位目当て」の学生が多くなり、動機付けには苦慮している。しかし、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、豊かな人間性と社会性を得るためには重要であり、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.4と高く、レジュメ作成など、理解しやすいように様々な工夫を凝らしている努力が報われていると思われる。また、実際に質問はなかったが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は3.7であった。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.5であった。この数値は講義の性質上、やむを得ないものとする。学習量について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は8名、全く復習をしなかった学生は9名で、ほとんどの学生が予復習を行っていないが、6回以上予復習を行っている学生が1名いたことがせめてもの救いだらうか。なお、学生からの意見はなかった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が学生に定着することを目指したい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	看護学科
氏名	大住 伴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
薬理学	2	前期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 医薬品は必ずしも全てのヒトに同じ作用が現れるのではなく、投与されるヒトの持つ様々な要因によって作用は異なり、時には主作用が副作用に変化することもある。臨床の看護の現場でも、教科書に記載されている作用以外に様々な作用(特に副作用や薬物相互作用)が現れることを理解して、臨床の現場に出た時に役立てて欲しいと願い講義を行った。</p> <p>2. 15回という少ない回数で膨大な内容を教えなければならないため、要点等をまとめた、また、重要なポイントは敢えて空白にしたプリントを毎回作成した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>104名の定期試験の成績は、90点以上が26名、80～89点が29名で、昨年より多くなった。一方、60点以下は9名で昨年と同数であったが、再試験で全員合格した。このように、授業中に熱心に聴き、学力も充分ある学生がいる一方で、理解力が不十分な学生も見受けられた。これは、薬理学の学力が不足しているだけでなく、薬理学の基礎となる生理学などの科目の学力も不足しているためと思われる。</p> <p>学生の理解力確認のため単元毎に小テストを実施したいと考えるが、現在の講義時間数では、求められている内容を講義する時間さえ足りない状況で、小テストを行うことはできない。しかし、今年度から、出席票の裏に質問事項等を書かせ、次の時間の最初にその説明等を行なった。学生の反応もよく、来年度も続けて行く予定である。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>1. CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は専門教育科目「看護を学ぶための基礎」であるが、基礎と臨床をつなぐ科目でもあり、国家試験にある必修科目でもある。「看護を学ぶための基礎」では、看護の対象である人々を総合的に理解し、看護を実践するための基礎的知識・技術の習得および態度を育成するとともに保健・医療に関わる倫理観を養うことであるが、本科目ではその中の看護を実践するための基礎的知識の修得に該当する。</p> <p>2. DPからみでの内容的妥当性 この科目で求められているのは、「DP1-2:看護学分野での基礎知識を修得している」であるが、前述のように、定期試験で104名中80点以上が55名、再試験で全員合格のため、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>3. まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>前述のように、毎回要点をまとめ、重要なポイントをあえて空白にしたプリントを作成、配布した。また、教科書の内容以外に関連するトピックスなども盛り込んで講義を行った。授業評価の学生からのコメントに、「分かりやすかった」、「とても楽しく分かりやすかった」などの意見があり、手応えを感じている。ただ、1名の学生からは「量が多く、黒板に書いても理解しているうちに分からなくなった。パソコンでスライドにした方がいいな。」という意見があった。来年度はこの意見を参考に講義を行なうことにする。</p> <p>また、例年授業時間が足りないことから、学生の疑問や質問に答える時間がなかったが、今年度から、出席票の裏に質問や疑問を記載してもらい、全ての質問に対し、次の時間の最初に説明等行なった。これも学生の理解力のアップにつながったと思われるため、来年度も続ける予定である。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>この科目に求められているDP「看護学分野での基礎的知識を修得している」は概ね達成できたと考える。さらに達成するため、今年度から行なった出席票の活用を続け、講義時間が足りない中でも、学生の理解度を確認しながら講義を行なう考えである。</p>
------------------------------	--